

鈴木ひろみち

仕事はきついけど、
たまには
癒い
や
たれ
の

保母さんに二度目の恋をした
先輩OLの痴態に欲情した揺れる電車
熟女歯科医の叔母さん
許された義母相姦
パート妻の甘い唇
美人課長の誘惑のフェロモン
いとこのお姉さん報復の中だし
人妻タクシードライバー陰唇の疼き

WEB専用
限定

コミック
激イブ
成年
コミック
MEDIA X
CEKIYABAI
COMICS
51

鈴木ひろみち

仕事はきついけど、
たまには
癒やされたいの

保母さんに二度目の恋をした
先輩OLの痴態に欲情した揺れる電車
熟女歯科医の叔母さん
許された義母相姦
パート妻の甘い唇
美人課長の誘惑のフェロモン
いとこのお姉さん報復の中だし
人妻タクシードライバー陰唇の疼き

WEB専用
限定

コミック
激ハバ!

成年
コミック

MEDIAX
CEKIYABA!
COMICS

51

保母さんに

ホボさんに

ニドメの

一度目の

恋を
した

コイをシタ



話は俺が大学受験に
失敗して実家で
浪人生活を
してた時の事……

実家に
年の離れた姉が
離婚して息子を
連れて帰って来た

息子は保育園の
転入が決まり

仕事を持っていた
姉が送り迎えを
していた

その姉が風邪で
ダウンしてしまい
俺がその役目を
任された

その保育園は子供の頃
俺も通っていたのだ

おはよう
ございます

おはよう
ございます

まゆみ
真由美先生……

今日は
ママと一緒に
ないのね

おはよう
ございます

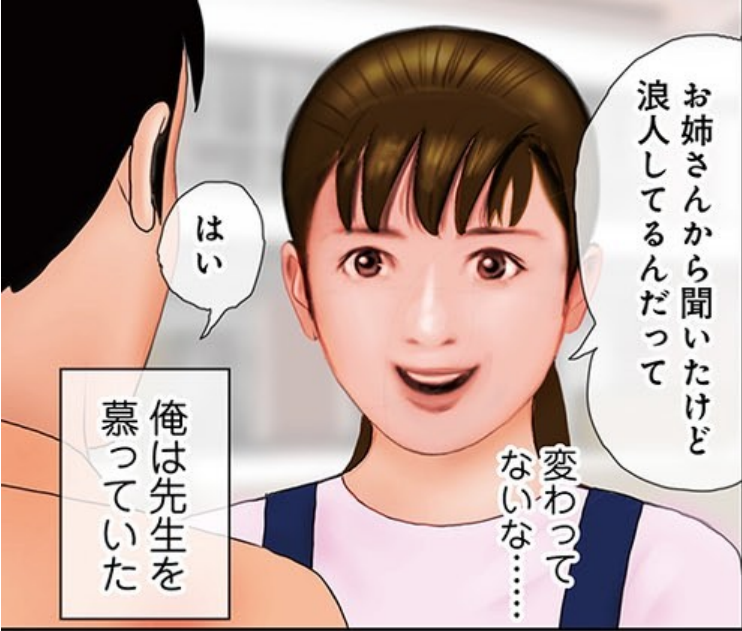
おはよう
ございます

おはよう
ございます

園に来るのは
卒園以来だったので
俺はちょっと
胸がときめいていた

風邪ひいて
寝込んでるんです

あらそう
……





真由美先生！

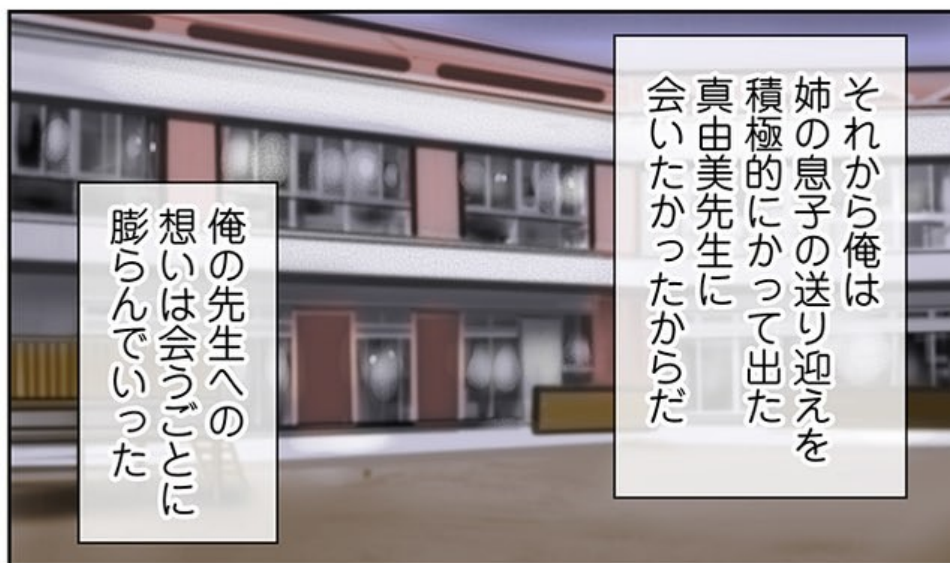
ピュッ

先生は37才
結婚していて
小学生の子供がいると
姉から聞いた



それじゃあ
さよなら

さようならあ



それから俺は
姉の息子の送り迎えを
積極的にかって出た
真由美先生に
会いたかったからだ

俺の先生への
想いは会うごとに
膨らんでいった



本当
助かるわ

保母さんたちに
休日出勤頼み
づらくてね



今度の日曜日
半日ぐらいで
いいんだけど

園内の
模様替えとか
備品の整理を
しようと思って

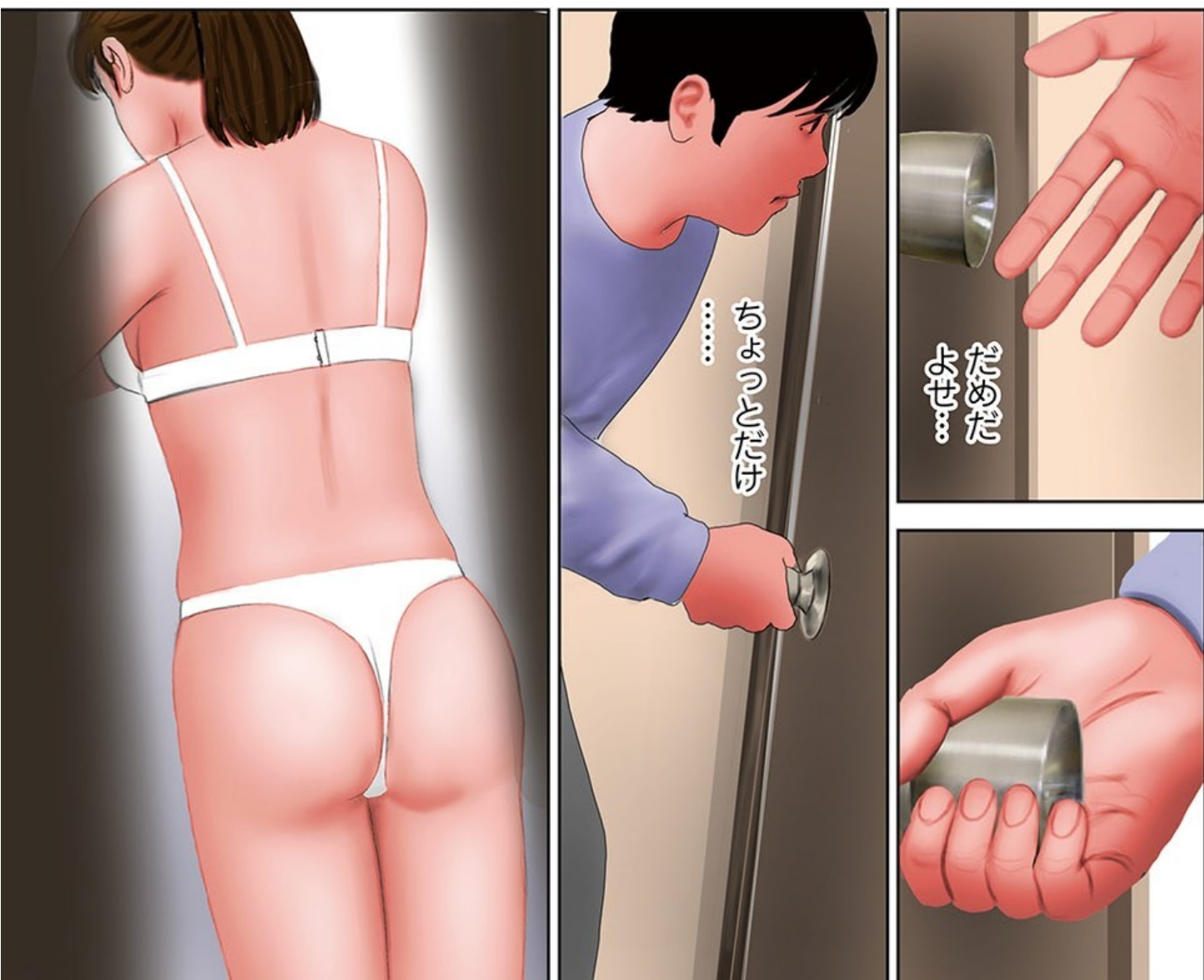
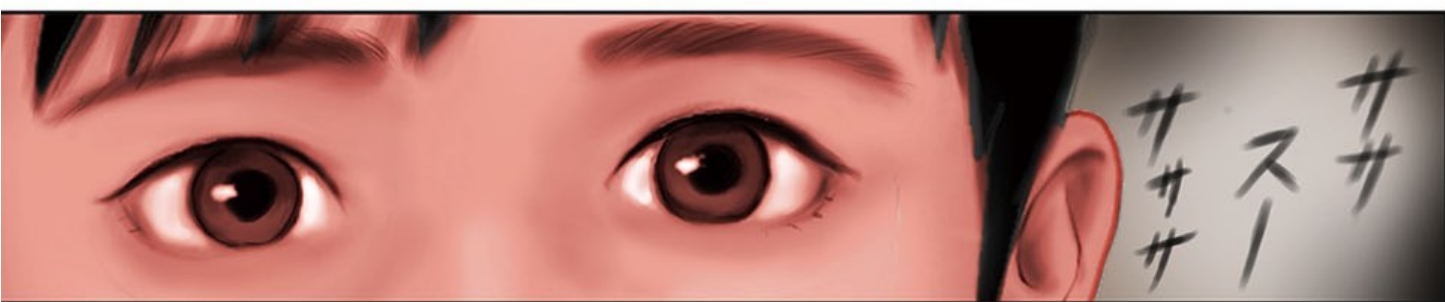
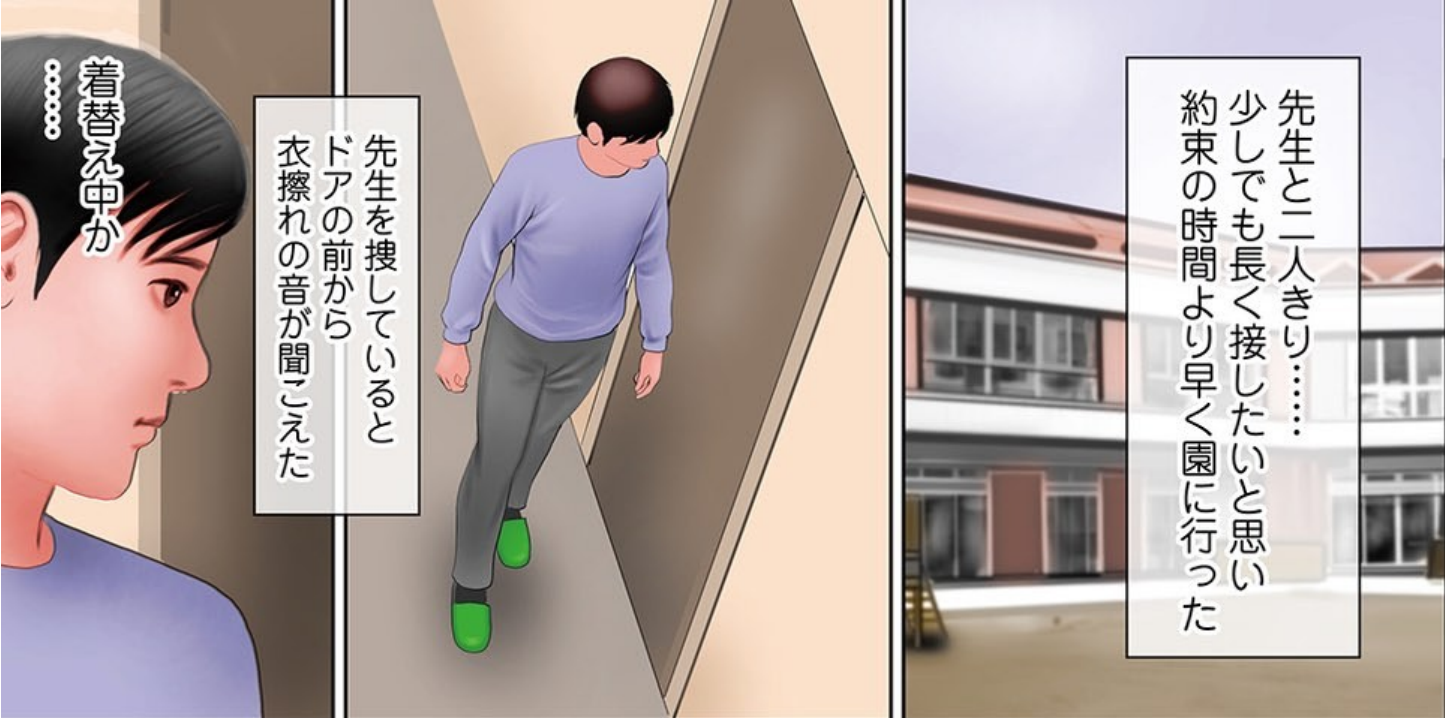
いいですよ

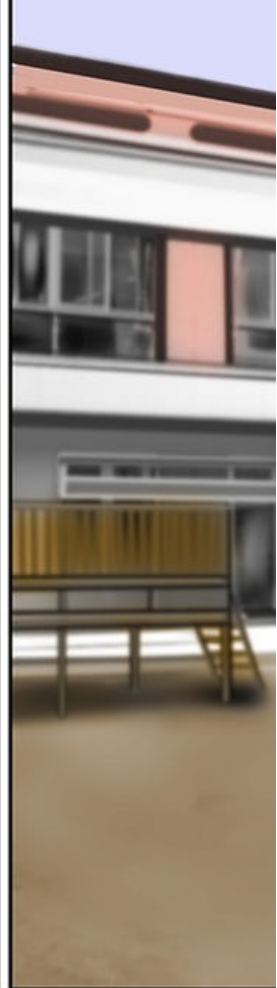


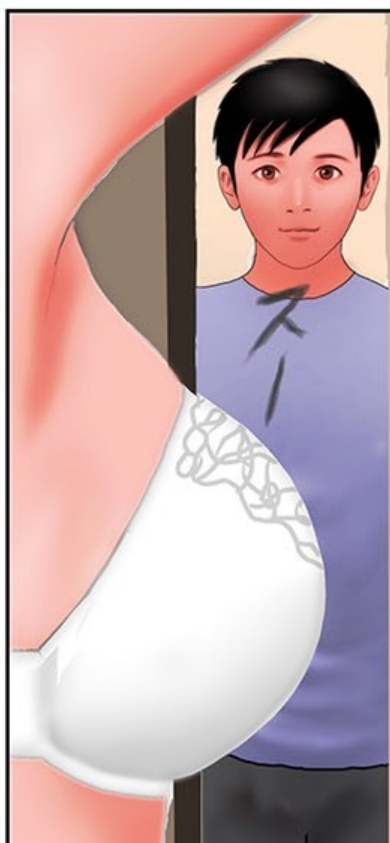
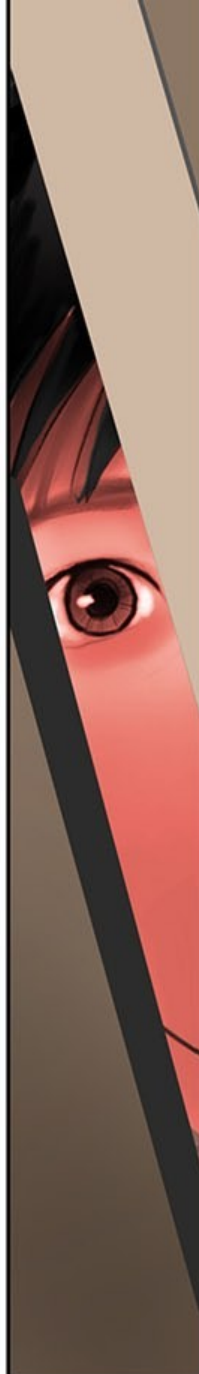
真也くん
アルバイト
しない

え…

先生は園長を
していた
先代の園長だった
母親から受け
継いだのだ







我慢できない！



…俺
困ってるんです

悩みなら
あとで聞いわ



何？



慰めてください
……先生

真由美
先生……

先生を攻略するのは
母性本能をくすぐるのが
一番だと思った



ええ……
嘘でしょ

先生のことが
頭から離れなくて……



俺恋しくて
切ないんです



勉強が手に
つかないんです

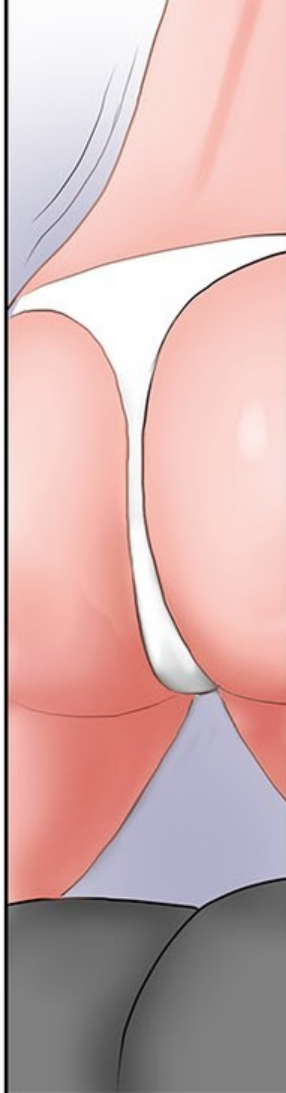
助けてください
……先生

そんな事
言われても
……



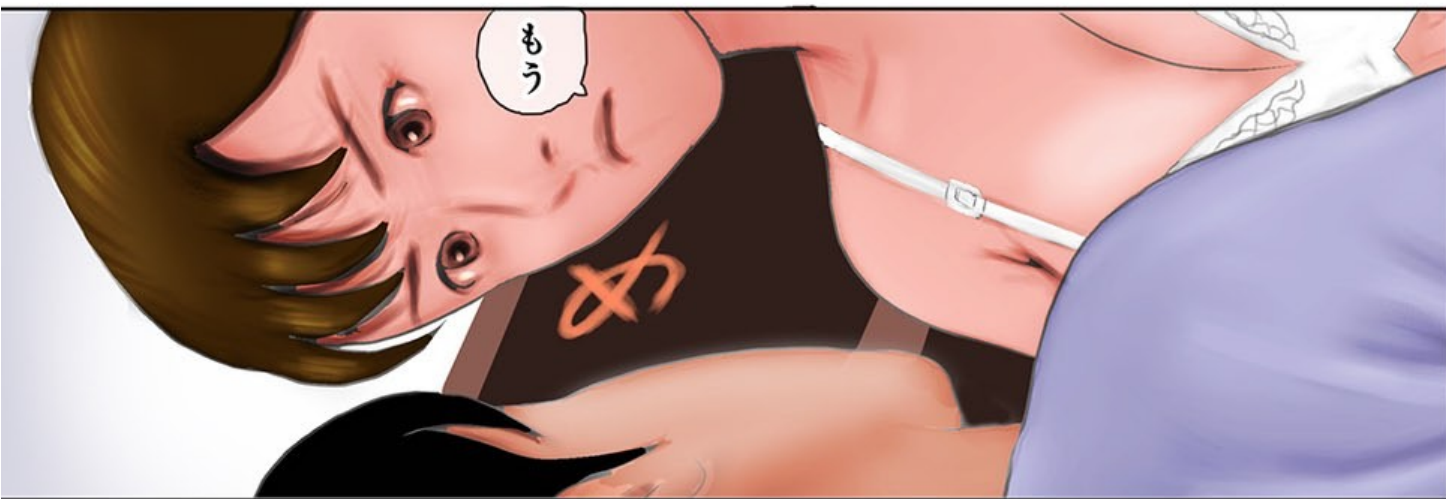
OKなのかな

先生は
腰を落とした



お願い

先生…



もう



先生は
前と変わらず
綺麗です

あなたから見れば
ずいぶん年上よ
どこがいいの



真由美先生



一度だけよ

誰にも
言っちゃ
だめよ

なんか
懐かしいな

…俺
先生のこと
園児の頃も
好きだったん
ですよ

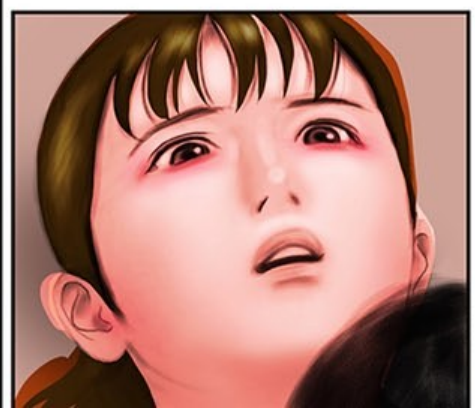
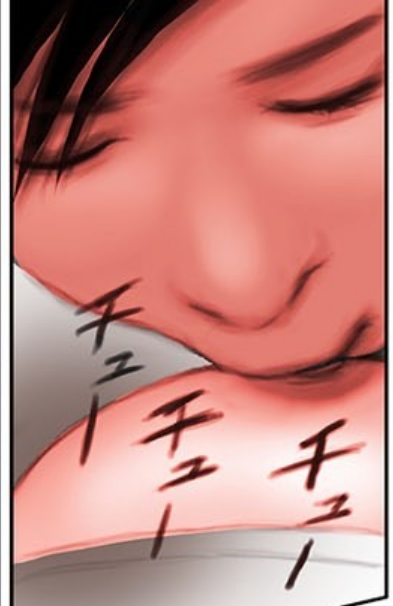
甘えて
よくこの胸に
飛び込んでたでしょ
覚えてますか？

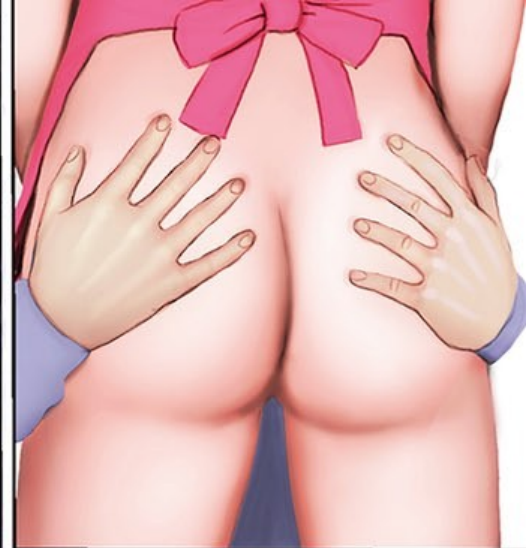
……あなたのこと
お姉さんから聞いて
あああの子か
なつて
うっすらと…

なんだ
俺のこと
覚えてたんじゃ
無かったのか

そんなこと
どうでもいいか

カ
ッ





あは...あ...
んん...うふ...

んはあ
...

先生のお股を
あ...舐めるなんて
...んん
いけない子ね...

あ!

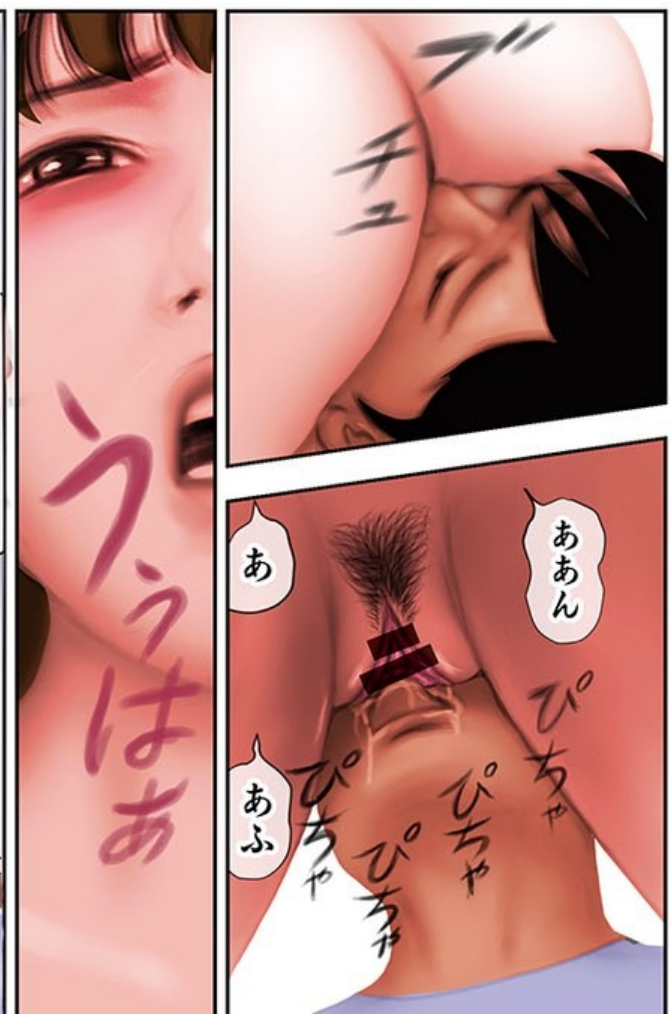
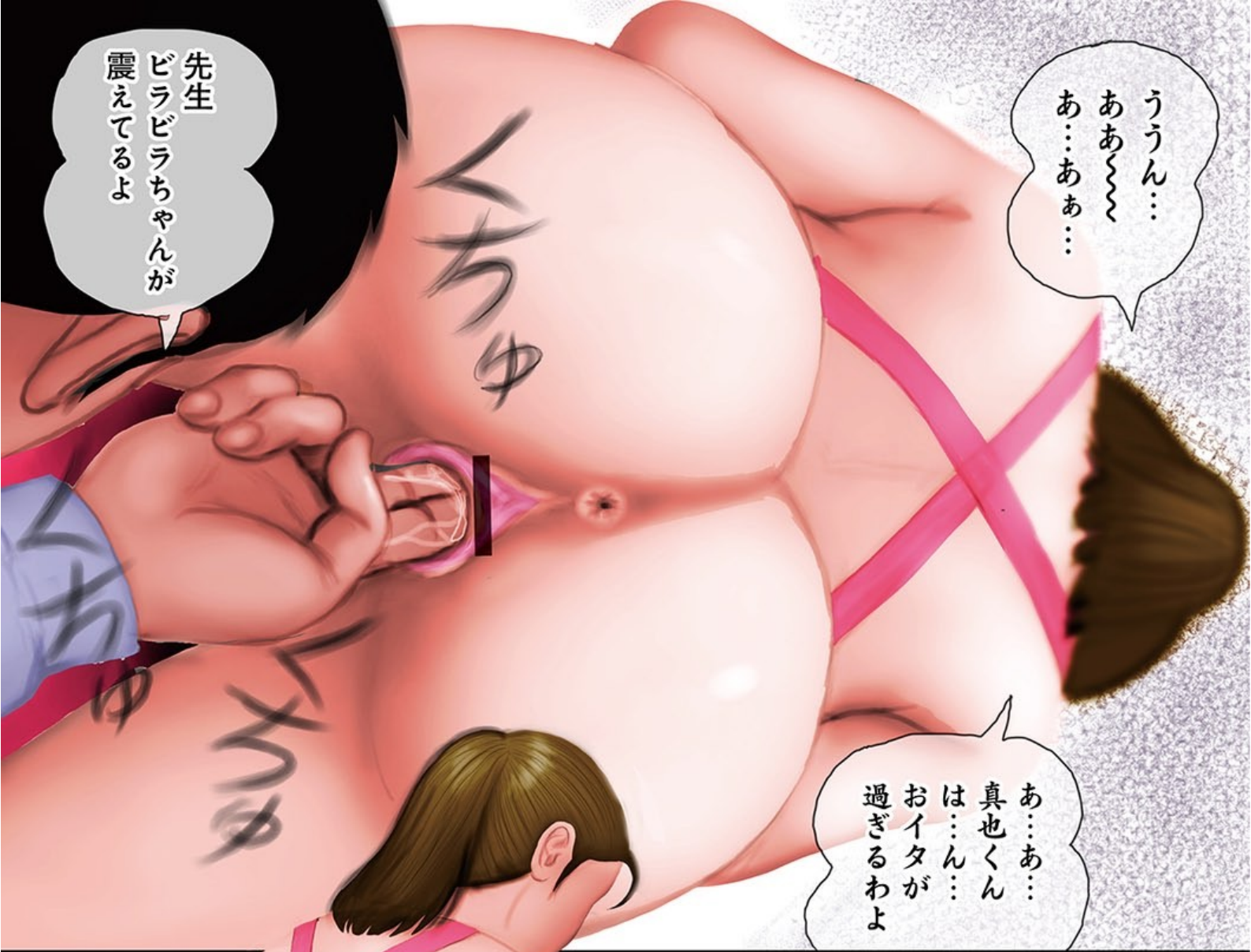


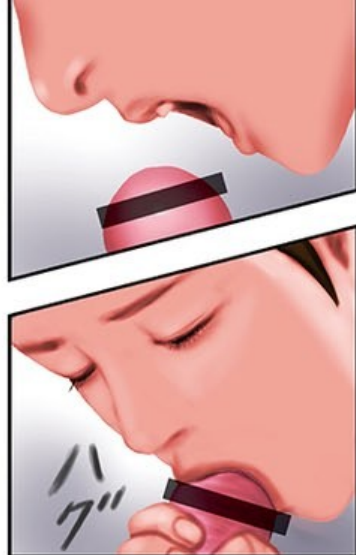
真由美先生の
ものとは思えない
卑猥なオマンコだった

先生
お汁が溢れて
きたよ...
このお汁
おいしいなあ

あ~~~~ん

先生の喘ぎ声は
艶っぽくなってきた





どうしたの？

うちの人と
比べて硬くて
大きいの



先生は
チンコを握り
見つめていた

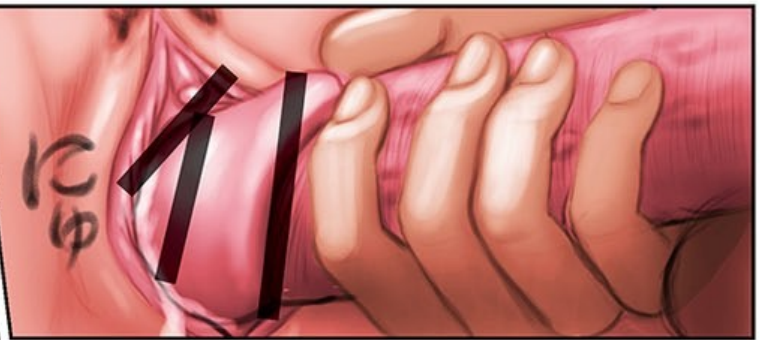


そうだ先生は
子供もいる
人妻なんだ

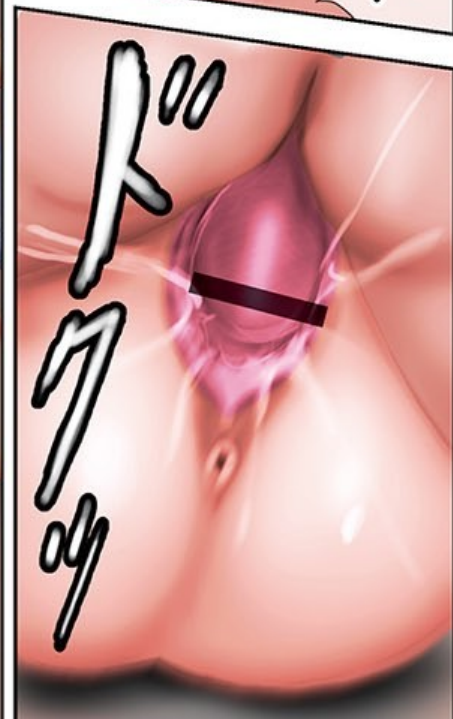
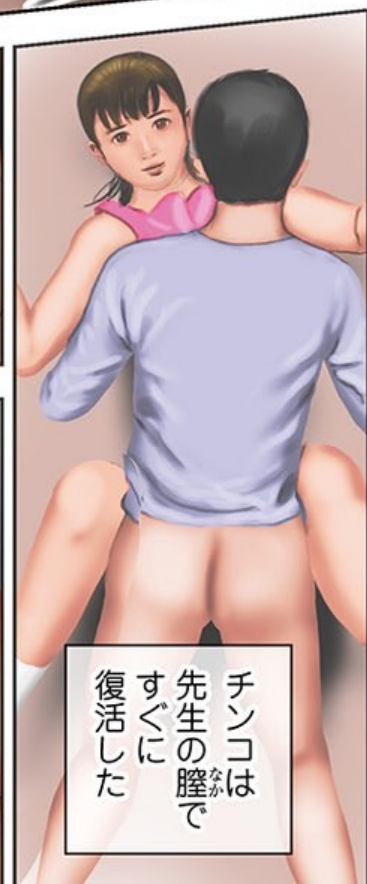
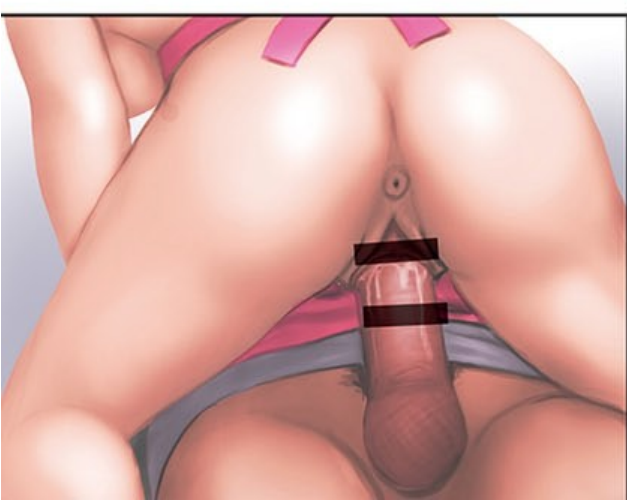
背徳感が
湧いてきて

さらに興奮は
高まった

あ~~~~
たまらない









あーん

あーん

あーん

あーん

俺も!

ああ
イクぅ~~~~



先輩
OL
の
恥態
に
欲情
した

揺

れる

電車

俺はある中小企業の
サラリーマン26才

俺は満員電車がいやで
いつも早めに出社していたが
その日は寝坊をした

あ…

その電車で
同じ会社の
女子社員を
見かけた

タタン

タタン

タタン

ガ
ー

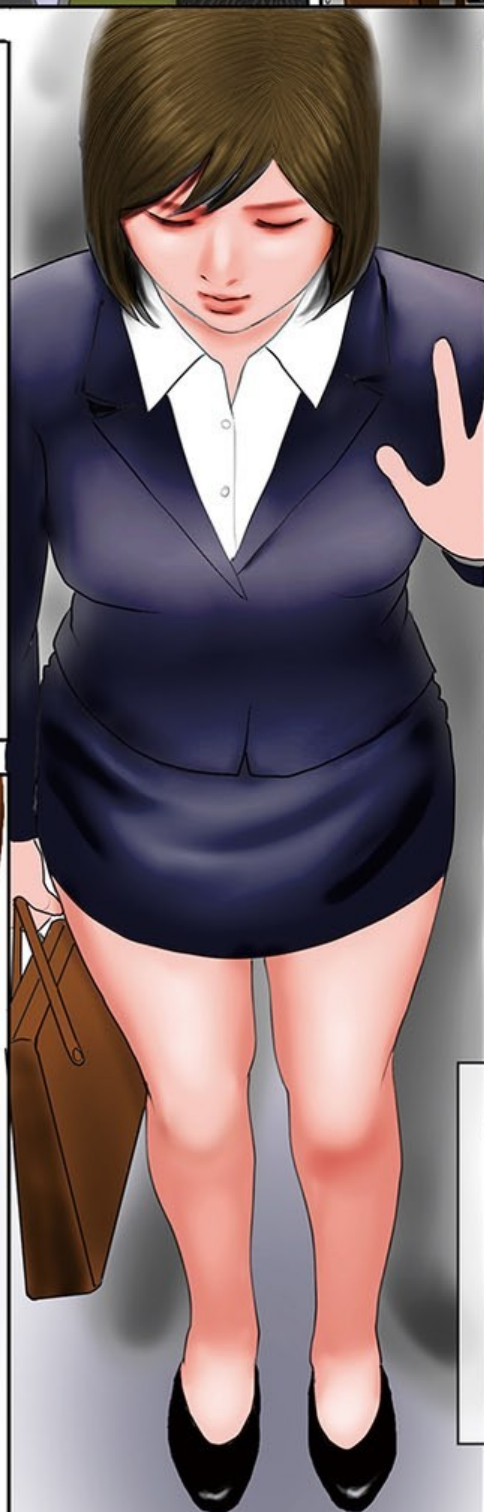


彼女は安永聡美32才
違う部署で人妻だ
やすながさとみ

タタン

その彼女がちょっと
様子が変だったのだ

ん



俺は彼女の容姿に
惹かれていた

タタン

タタン

痴漢か？

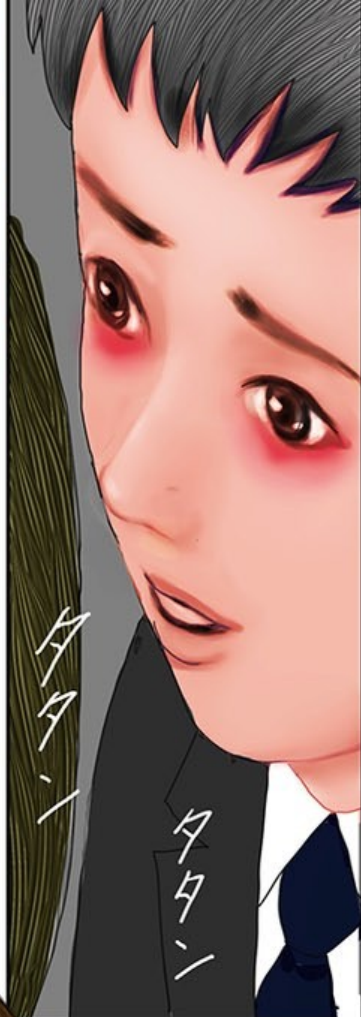
タタン

タタン

隙間から彼女の
腰が見えた

あ！

スカートが
たくし上げられ
パンツの中に手
入れられていた



ここは助けるべき
ところだが
俺は彼女の様子
に見入ってしまった

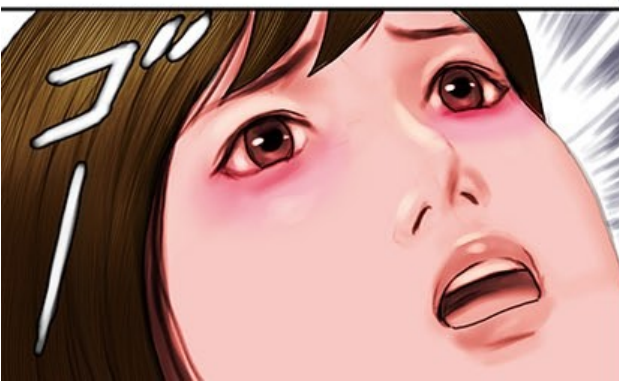
彼女の表情が
悩ましく
そそられたのだ

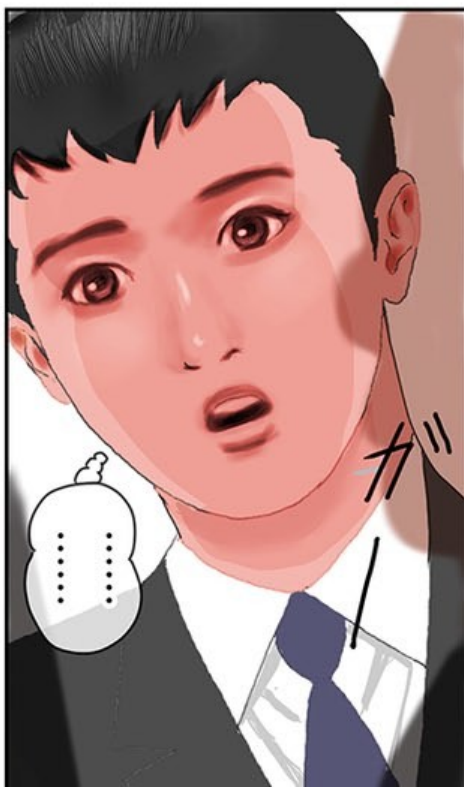
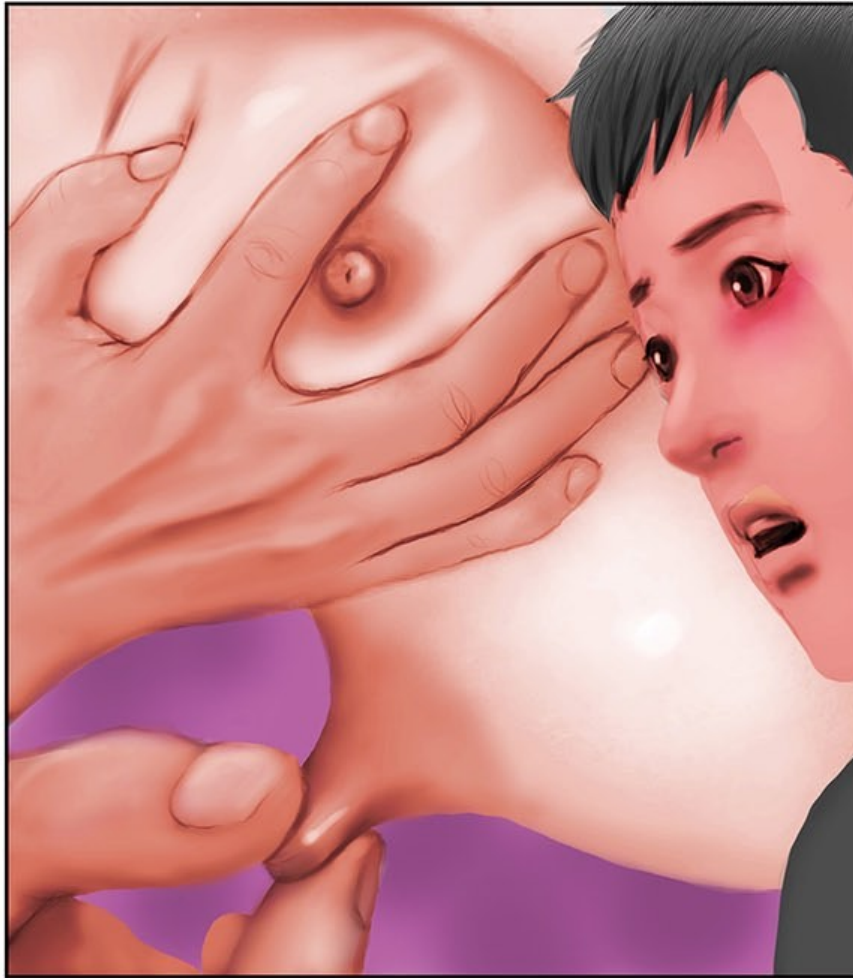
俺は彼女の
パンツの中を
想像した

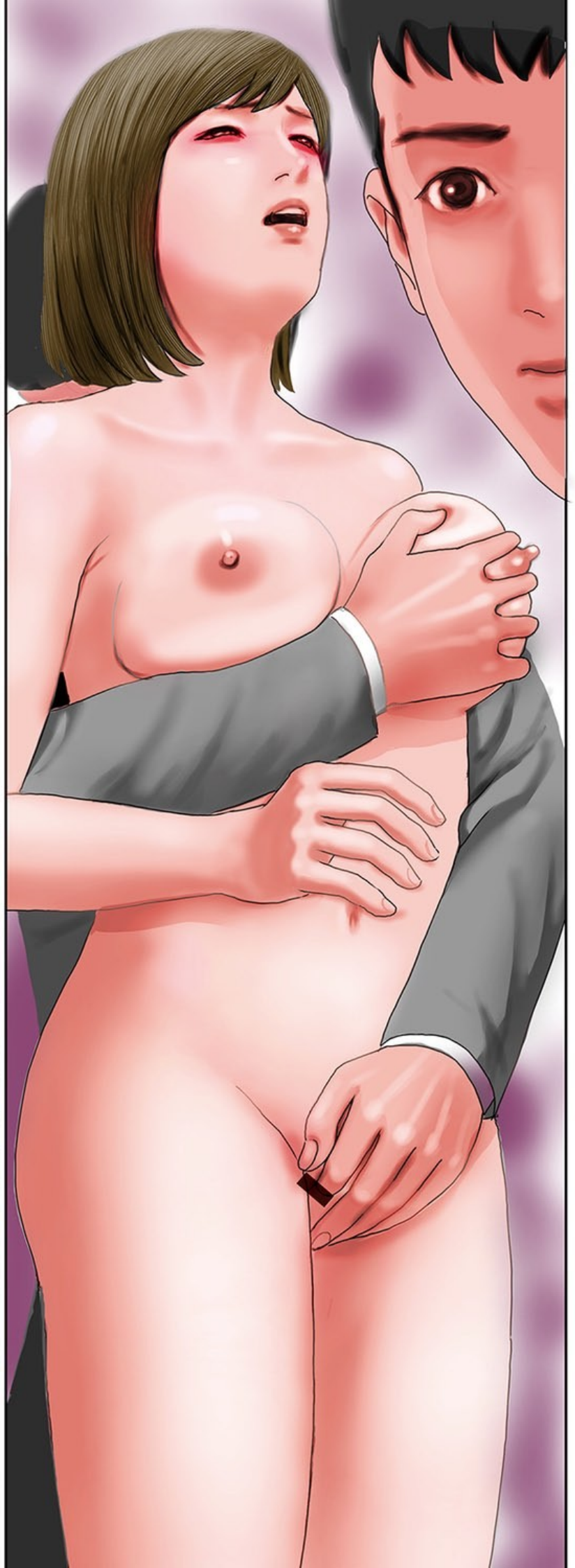
指は尻の割れ目を
たどって……

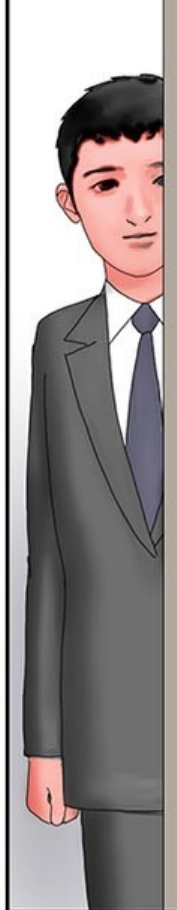
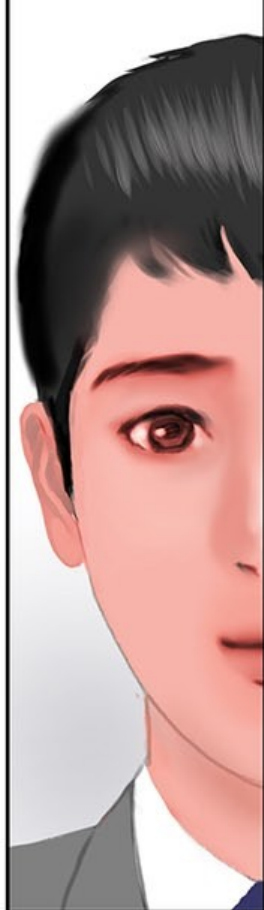


柔らかい尻
なんだろうな

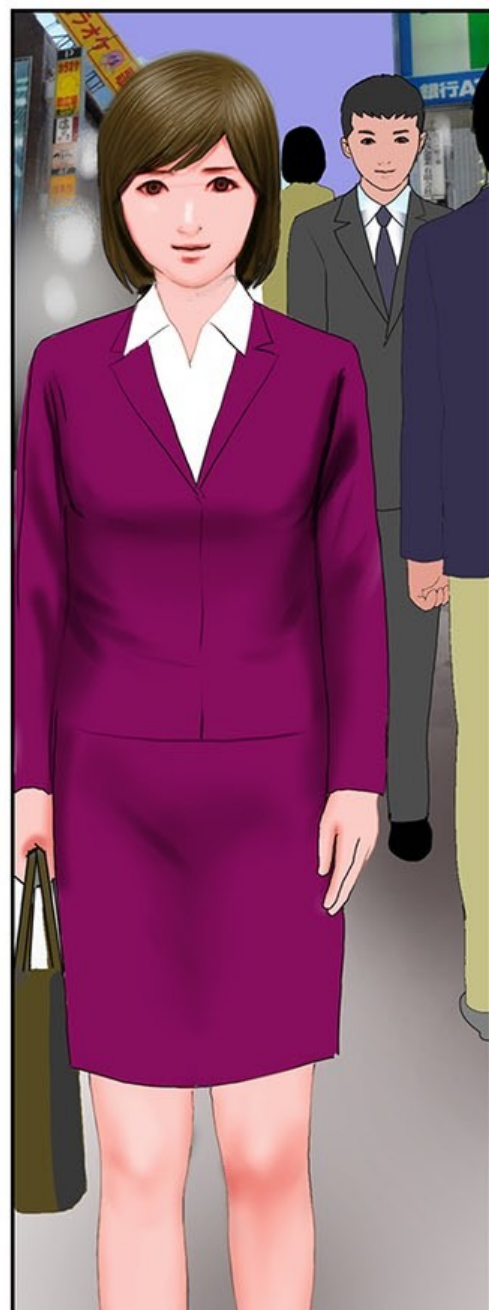
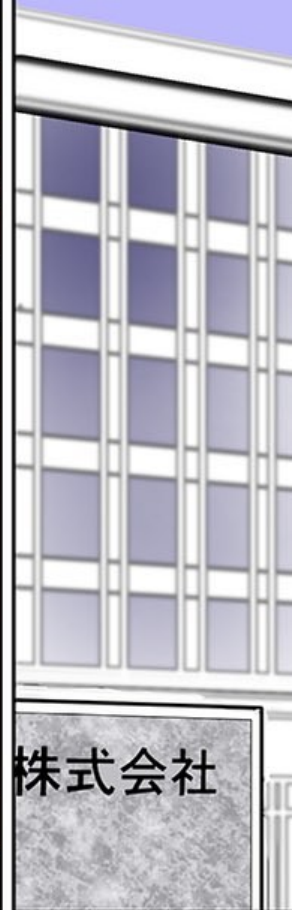
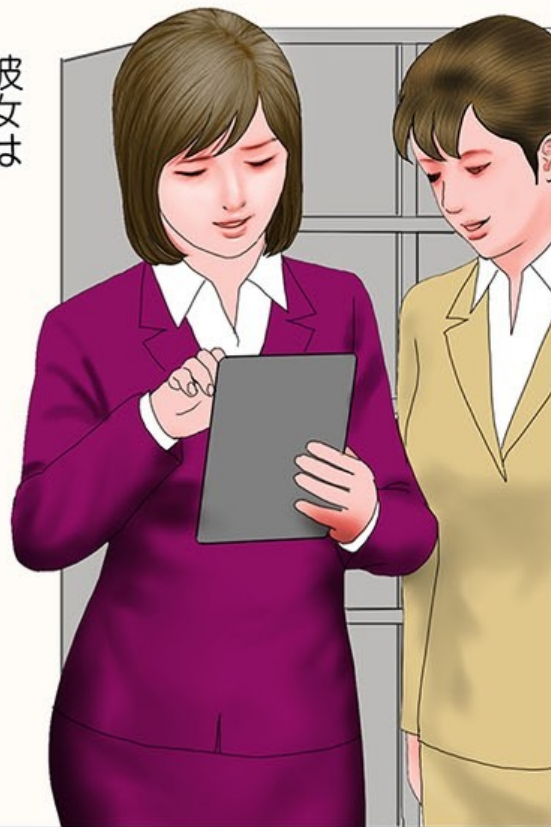








彼女は
痴漢されることを
望んでいる



俺は誘われて
いるような
感覚に陥った



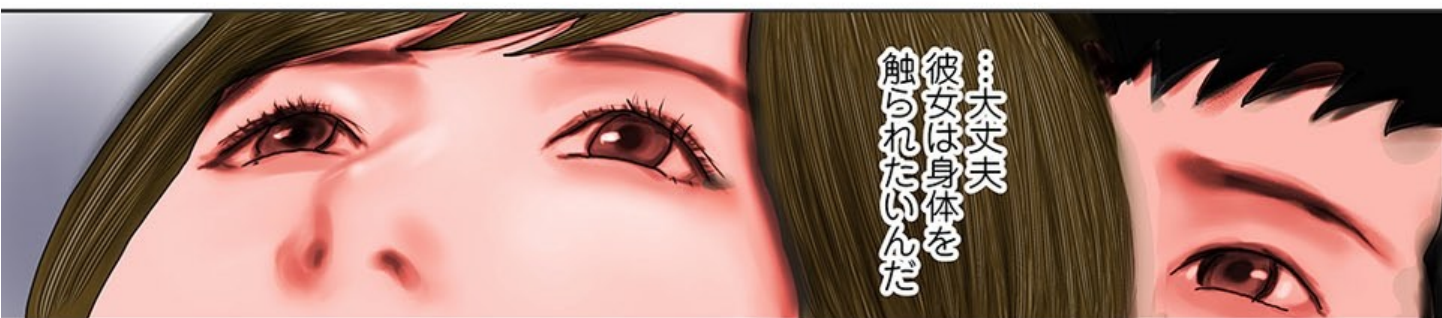
やっぱり
ヤバイよな
……



手が震え
心臓がバクバク
していた



俺は痴漢をするなんて
考えたこともなかった
……

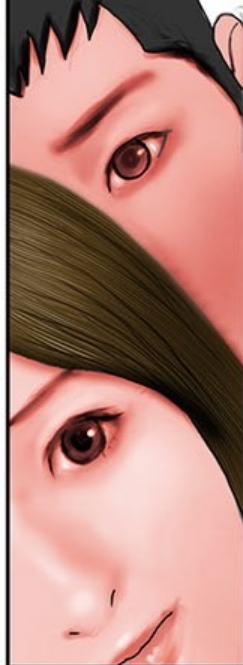


……大丈夫
彼女は身体を
触られたいんだ



てのひらに
なだらかな丸みが
伝わってきた





その時
彼女が
振り向いた

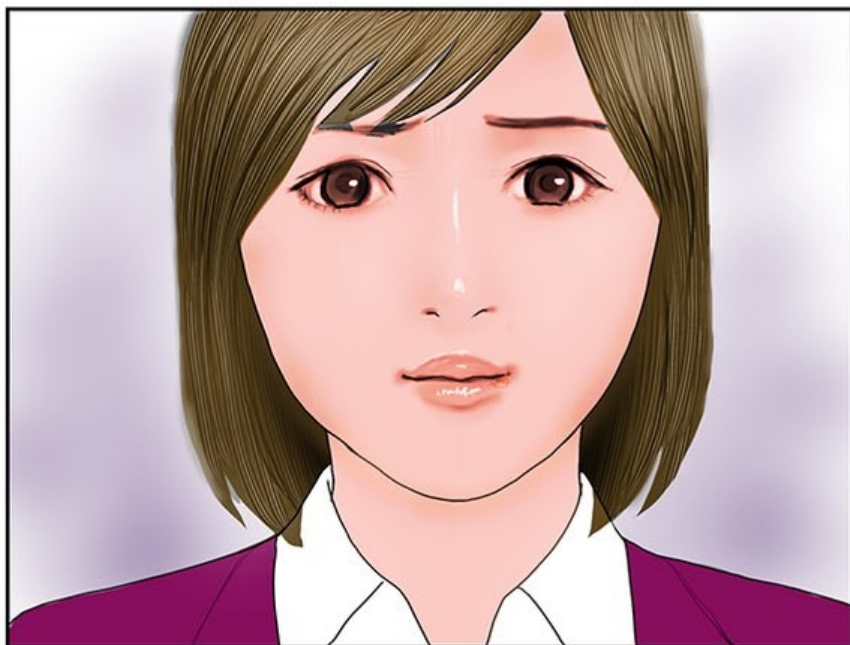


拒んでない
感じてるんだ

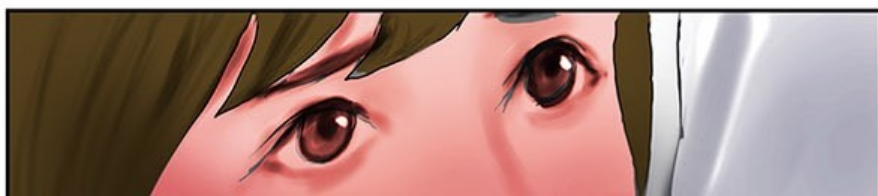
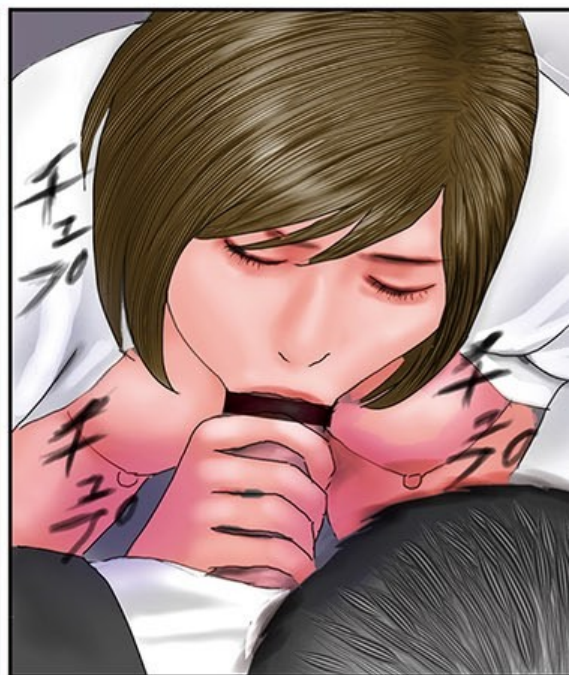
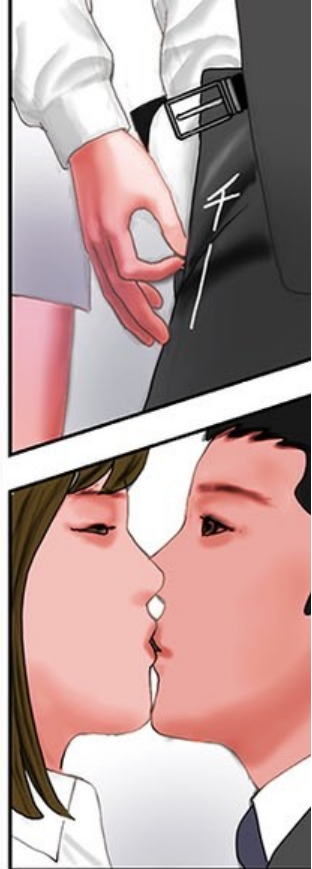
指を割れ目の
奥へ進めた…

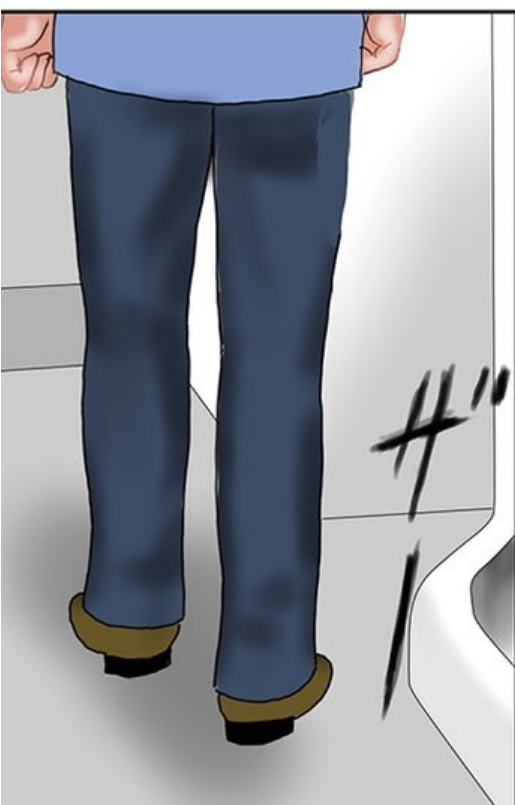
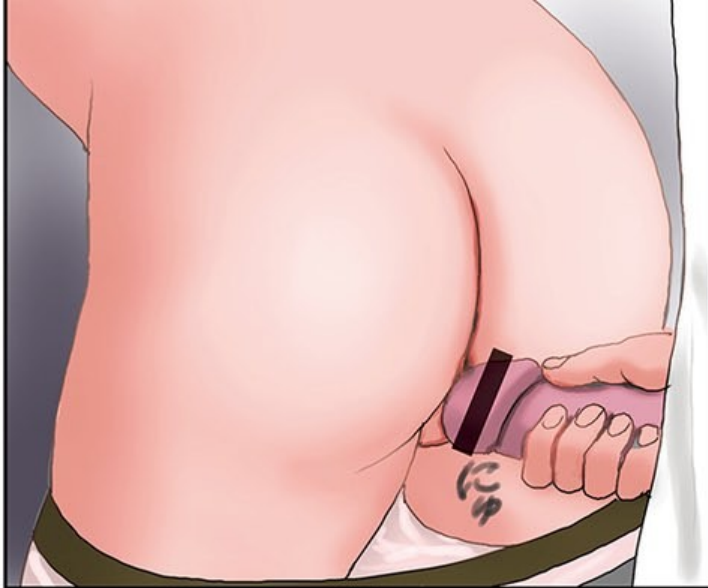
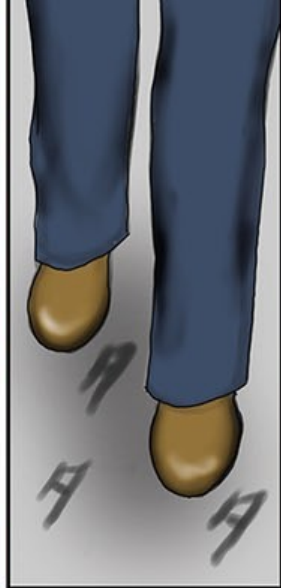
でも
これVIOGY
してあゝか……



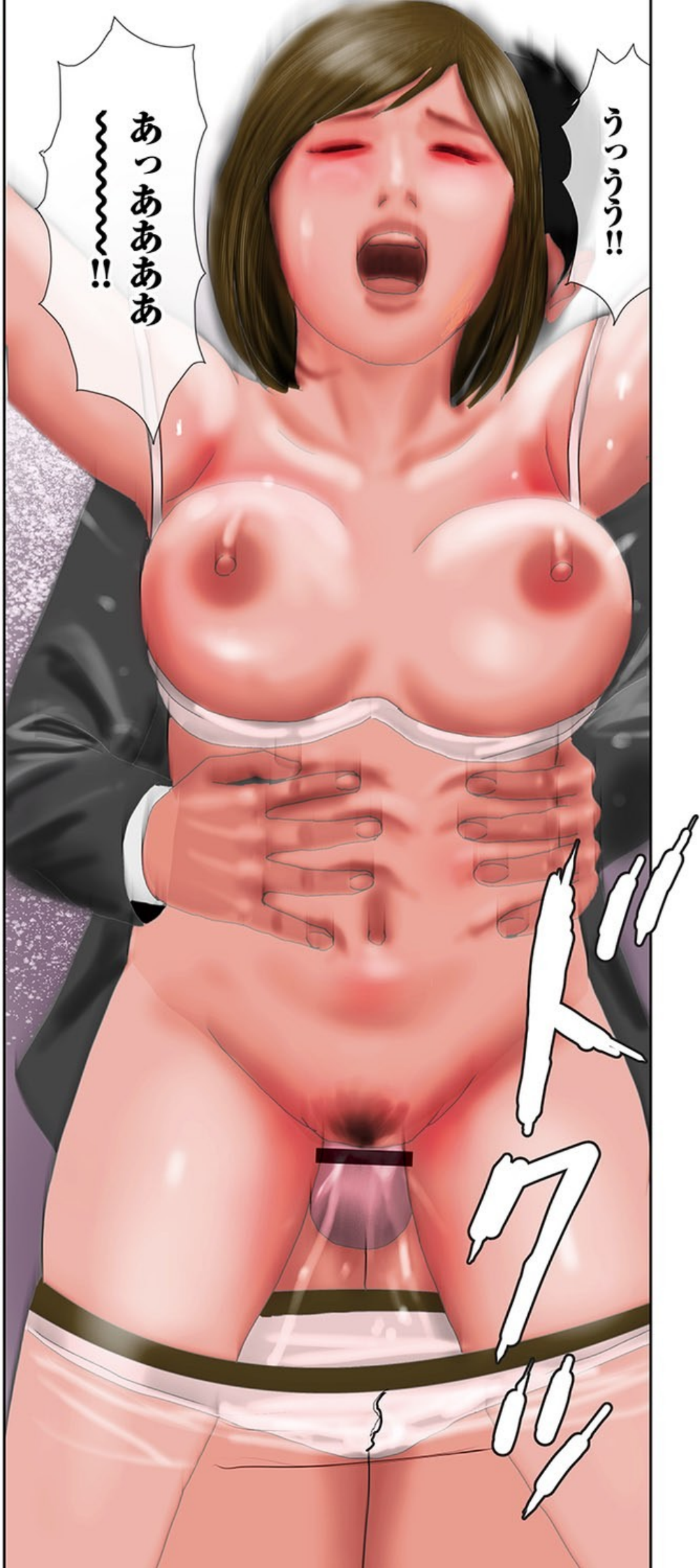
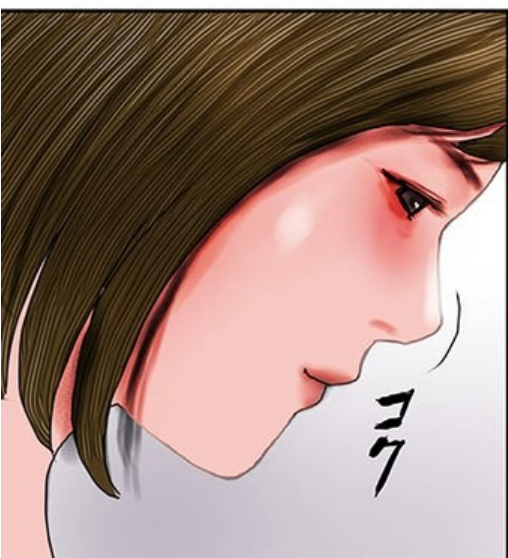
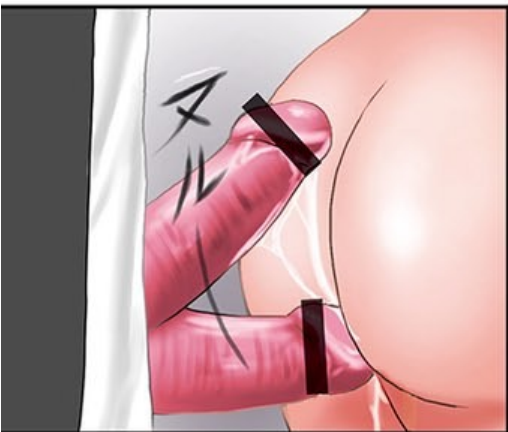


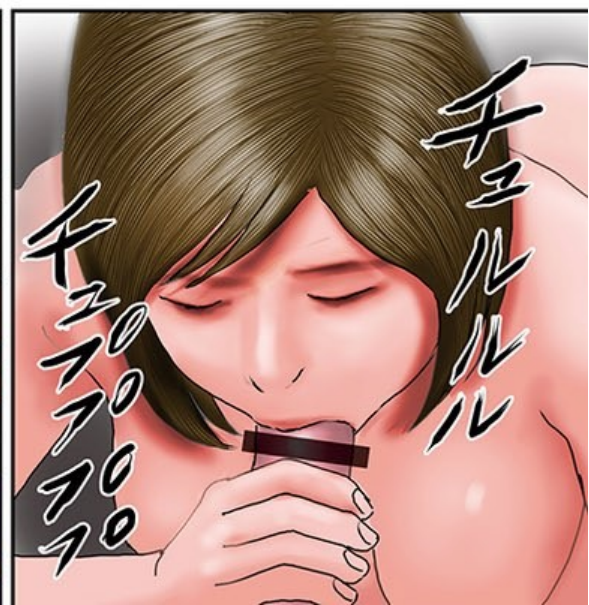


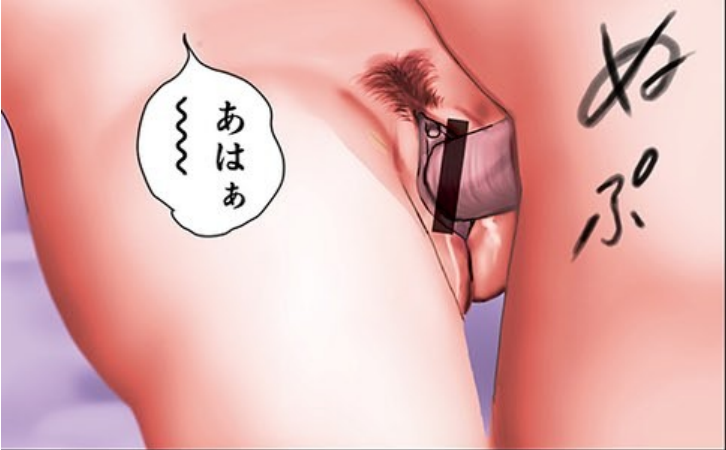


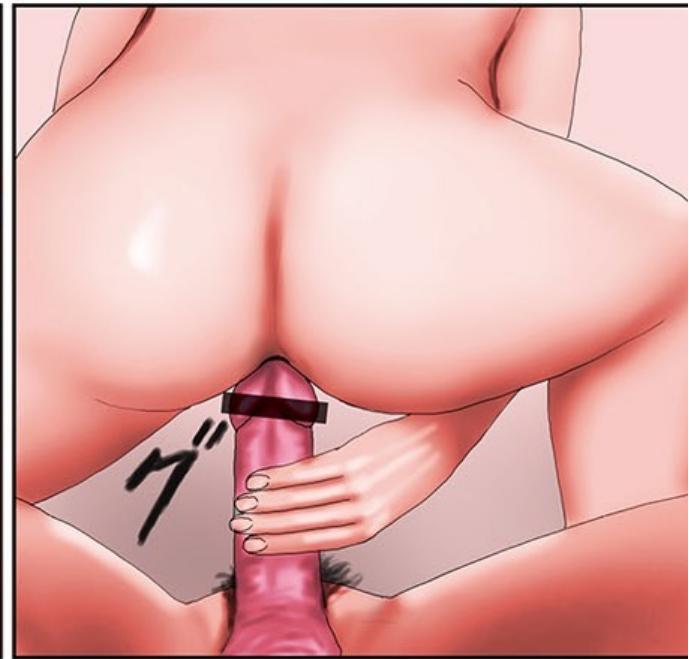












熟女歯科医師の 叔母さん

じゅくじょ
しかいしの
おばさん



俺は20歳の大学生

歯科医院

俺の叔母の美奈代さんは
歯科医師で43歳

その叔母さんの医院が
ピンチに陥っていたのだ

…うん
その顔の角度
そそられるよ

というのは
半年くらい前に
近くに別の医院が
開業してから
叔母の医院の患者が
減ってしまったのだ

主に
男性患者
だった

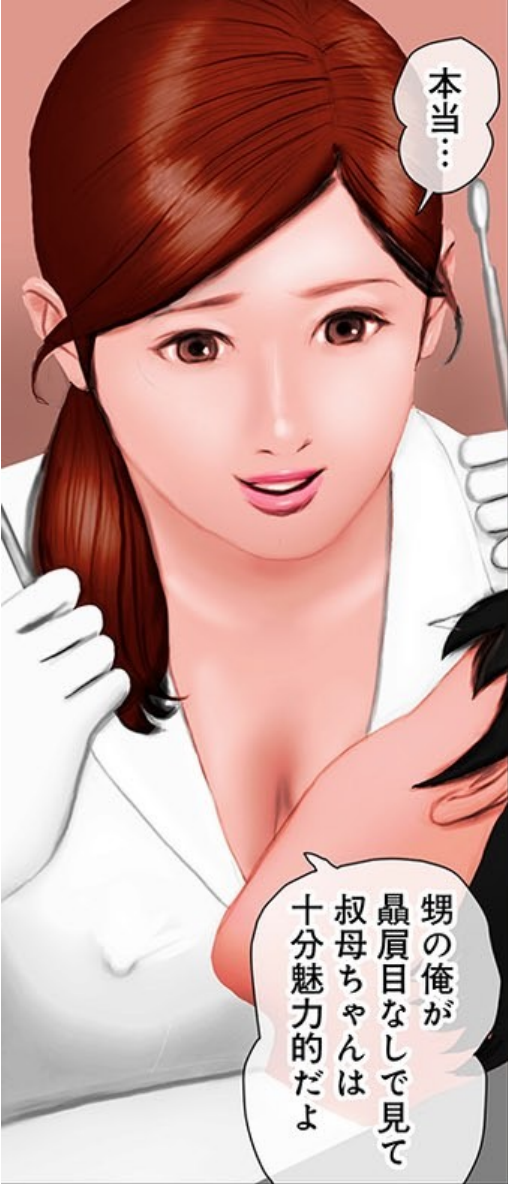
時折
患者の目を
見つめて

……やっぱり
この格好は
無理よ

ブラはつけてた
ほうがいいかな

原因はおそらく
その医院の女医だと
推測された

彼女は20代で可愛らしく
愛想がいいとネットで評判に
なっていたのだ



本当…

甥の俺が
鼻屑目なしで見て
叔母ちゃんは
十分魅力的だよ



そこで俺は
お色気にはお色気で
対抗しようと
叔母に提案したのだ

そして男が
喜びそうな事を
レクチャーした

……
さりげない
スキンシップが
肝心だよ

：若い娘と
張り合っても
勝ち目ないん
じゃない
かしら

いや
叔母ちゃんが
その気になれば
負けるわけないよ



そのくらいのこと
しないと

三代続いた
この医院
潰したく
ないでしょ



叔母への
性的関心は
今でも
続いていた



叔母ちゃん
胸を顔に
押し付けて

……



このレクチャーは
半分以上俺の
すけべ心から
くるものだった



俺が性に
目覚めたのは
叔母だった

うちの人は
もうあたしの
ことなんか
見向きも
しないわよ

それは見慣れ
ちゃってる
からさ



……
こう？

…もう少し
強くても
いいんじや
ないかな



これぐらい？

あー
たまらない

これはいけるよ
患者は喜ぶよ
でもわざと
やってるって
バレないようにね
さりげなくだよ

俺は
叔母の豊満な胸に
顔を埋めたいという
願望があったのだ



……



俺は叔母を
犯そうと
思っていた
……

でも
踏みとどまった
……

叔母ちゃんは
腕もいいしき
きつと医院は
盛りかえすさ
頑張ってね



……叔母ちゃんは
俺の邪な気持ち
をお見通しだっ
たんだ
……それでも
この提案に乗っ
た
……

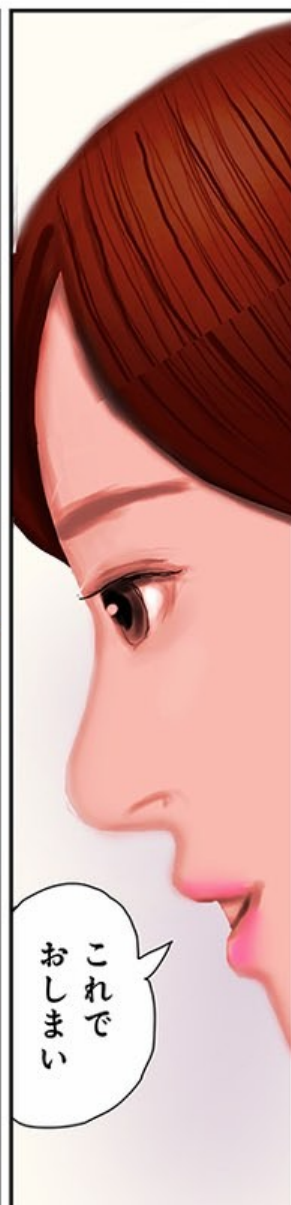
え……まさか……
ええ……

なーんだって
言ったのは
……
がっかりしたっ
てことか……



なーんだ
こんな格好
させられたか
ら何されるの
かと思っ
てたわ

え……



これで
おしまい



…まだレクチャー
することあるの



叔母ちゃん
もう少し
続けようか



もう
始まってるの

そうだよ

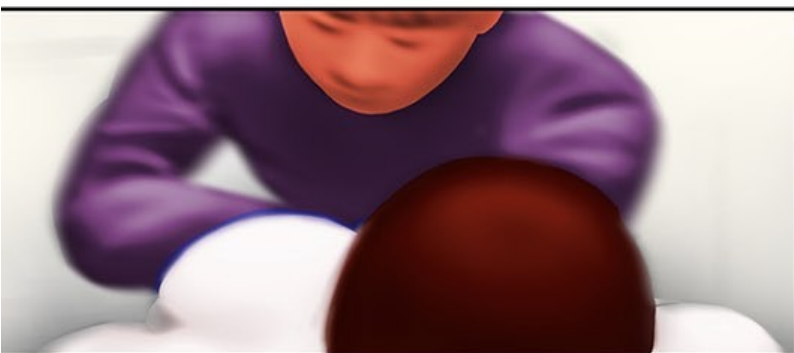


……俺
叔母ちゃんのことを
前から好きだった
叔母ちゃんのことを
欲しいって思ってた

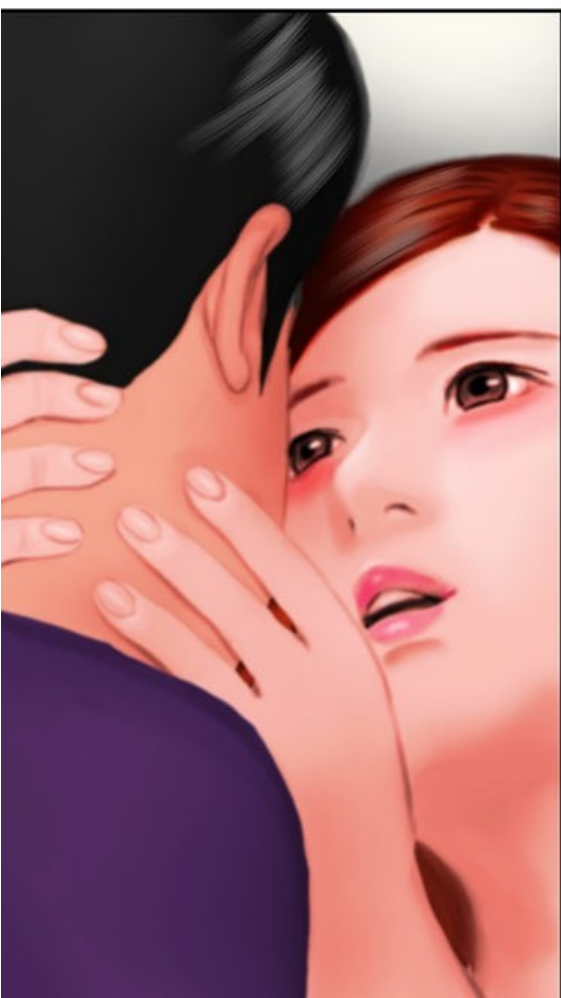


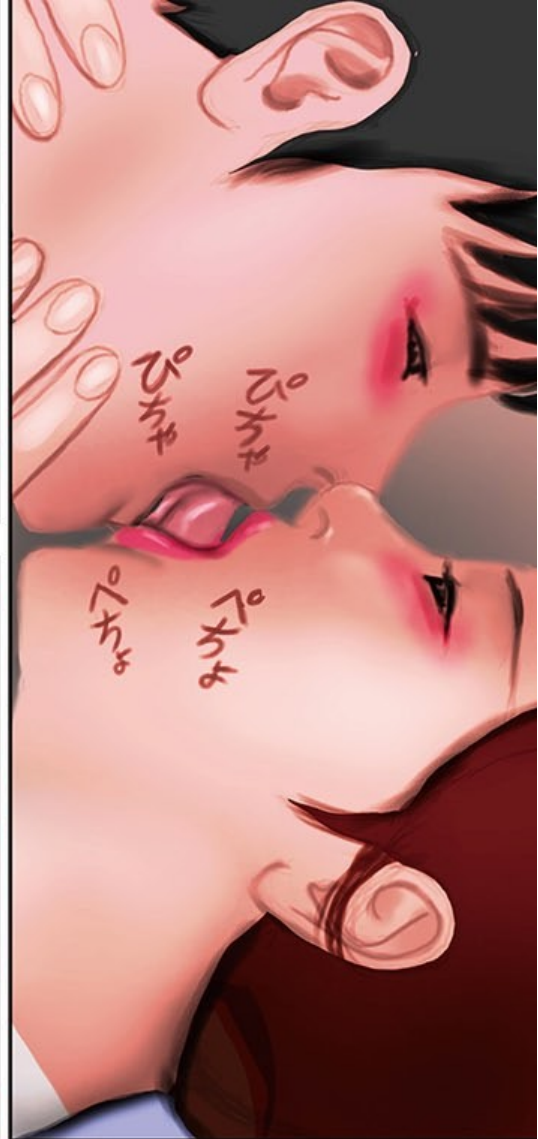
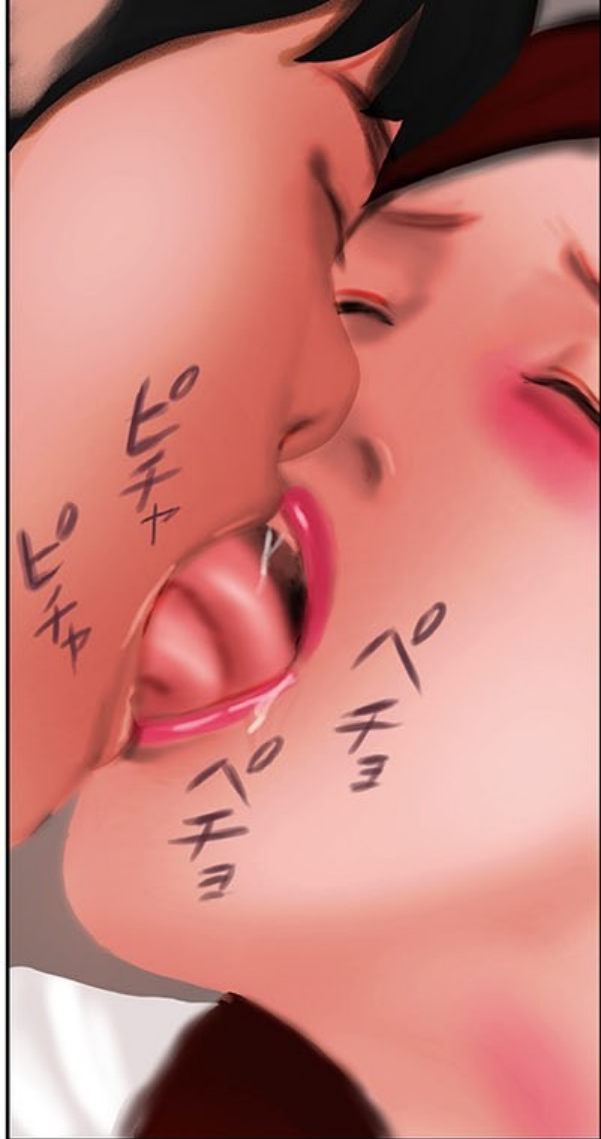
それは
おしまい

今度は医師と
患者じゃないよ
叔母に憧れてる甥と
その甥の思いを
受け入れてくれた叔母
という設定だよ









美奈代さんの
オマンコも見せて

ダメ見ないで
使い古してるから
恥ずかしいわ

年季が入って磨きが
かかってるんじゃない

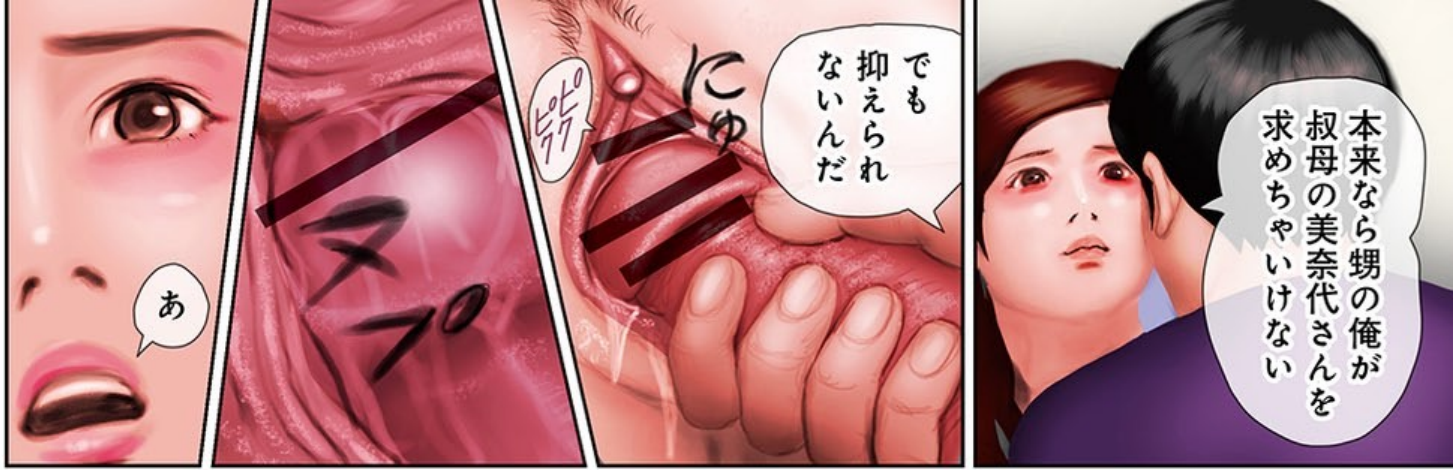
叔母のオマンコは
高校時代の元カノの
処女マンと比べ
かなり卑猥に見えた

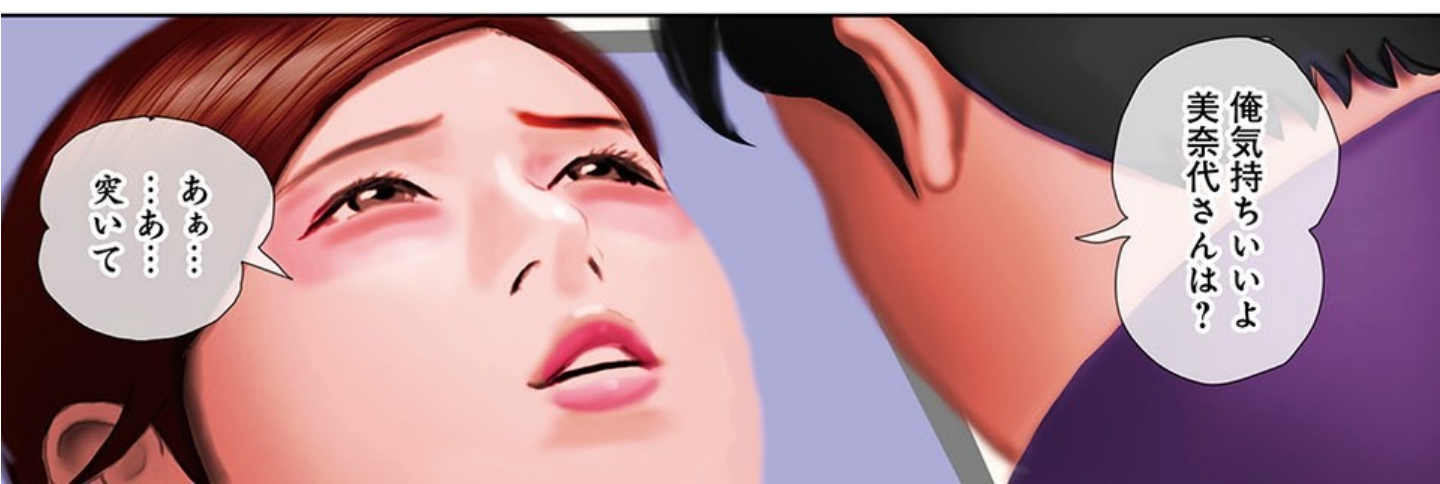
……
いやらしい

褒めてるんだよ
セクシーで
そそられるって
ことだよ

だから
言ったじゃない





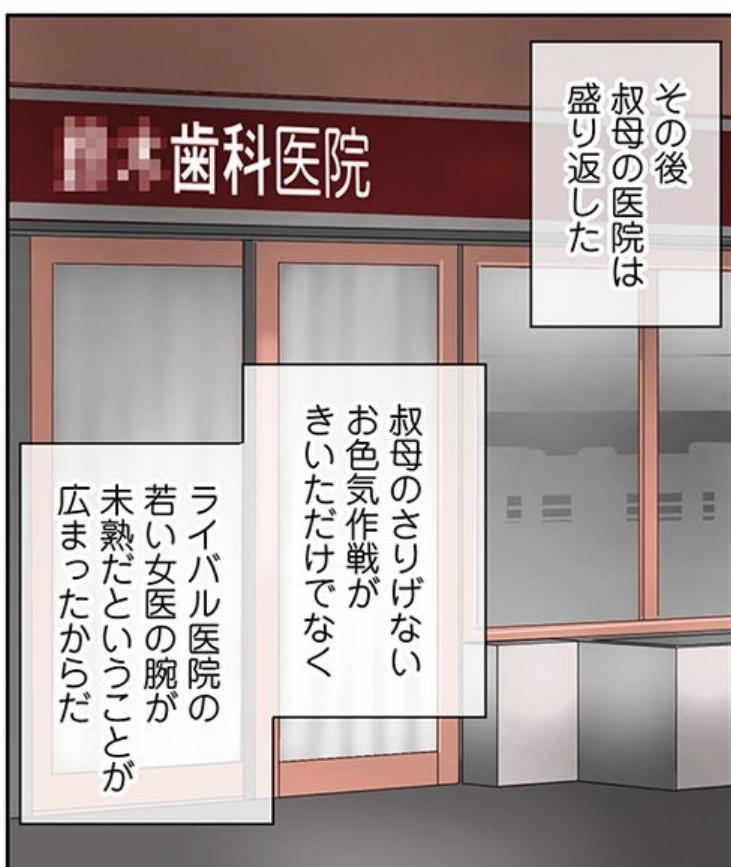




んんはあ

美奈代さん
若いエキス
欲しくない!!

ほしいわ!
いっぱい
ちょうだい!!



許された義母相姦

ゆる

わたしは勤めていた
画廊のオーナーと
結婚しました
わたしは32才
主人は51才です

わたしは主人を尊敬し
心の広い人柄に
惹かれたんです

そして結婚しても家に縛らず
主人がいくつか所有する
画廊の一つをわたしに任すと
言ってくれたのも
結婚に踏み切った理由の一つです



わたしは
画廊を持つのが
夢だったんです

ここは
もう君の画廊だ

好きなように
していいからね

一生懸命
頑張ります



いつか僕の
作品も展示してね

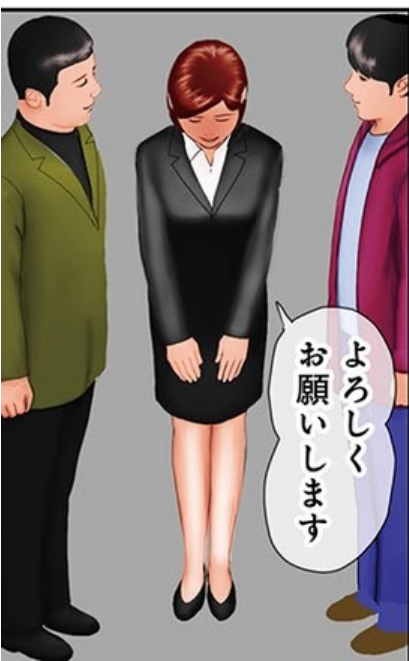
主人の連れ子の
正樹くん
美大に通って
います

父さん
よかったね

こんな若くて
綺麗な人が
お嫁さんに
来てくれてさ

よろしく
お願いします

3人で
仲良くやろうな

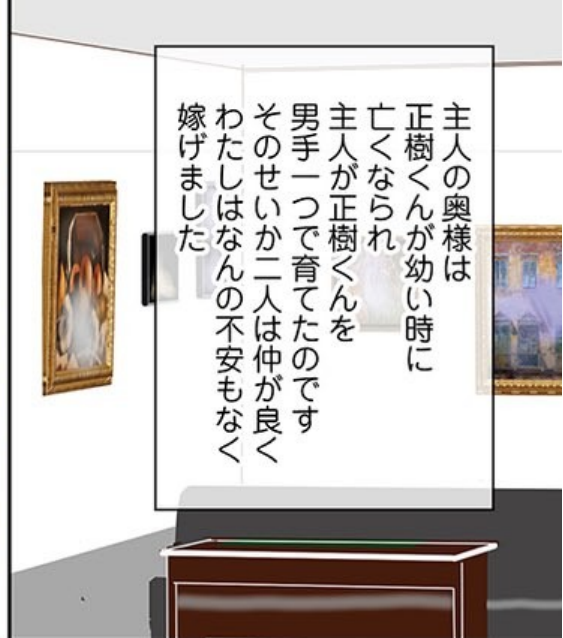




結婚して
半年……

わたしは
充実した生活を
送っていました

あることを
除いては……



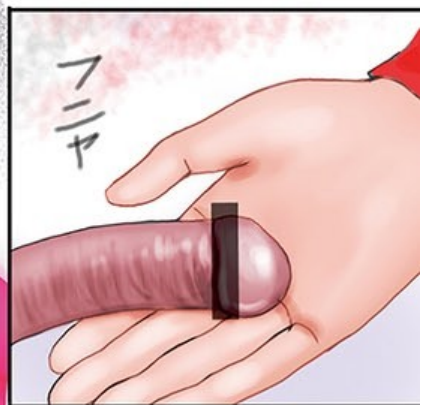
主人の奥様は
正樹くんが幼い時に
亡くなられ
主人が正樹くんを
男手一つで育てたのです
そのせいか二人は仲が良く
わたしはなんの不安もなく
嫁げました



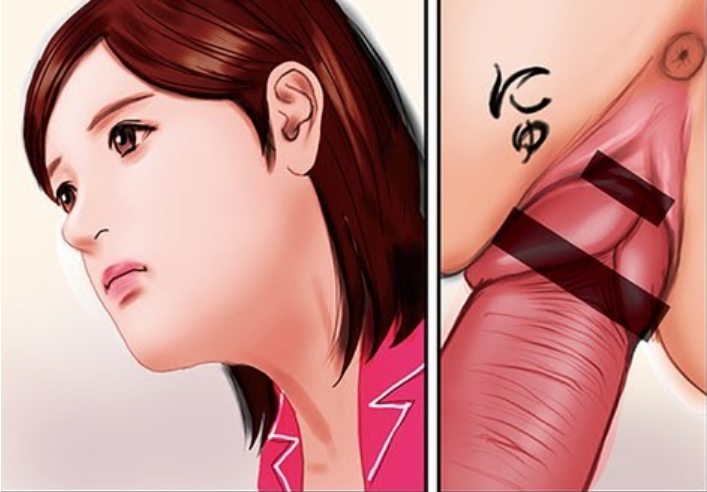
主人のペニスは
結婚当初は
元気があったん
ですが……



それは
夜の夫婦生活
……



こっちの方は最初から
あまり期待して
いませんでした





結婚したら性欲が
高まってきたのです



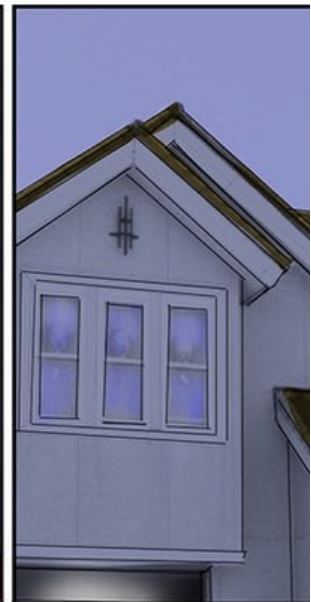
独身の時は
性に淡泊
だったのに
……

でも性欲は
溜まって
いました



あ……

ああ
……



デッサンの
修練するから
モデルになっ
てくれないかな

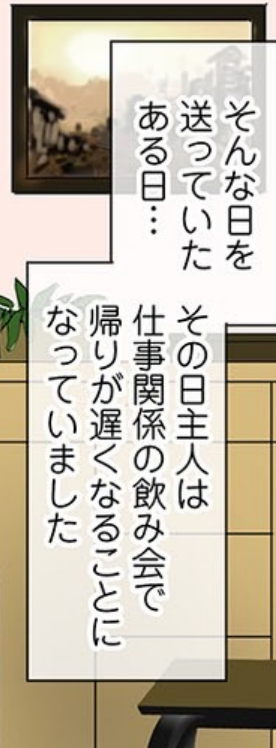


お願いが
あるんだけど

何？



あさみ
麻美さん



そんな日を
送っていた
ある日……

その日主人は
仕事関係の飲み会で
帰りが遅くなることにな
っていました



それは
ちよつと
勘弁して

下着姿なら
いい？



わたしは
引き受けました

えー
裸婦デッサン



ありがとう



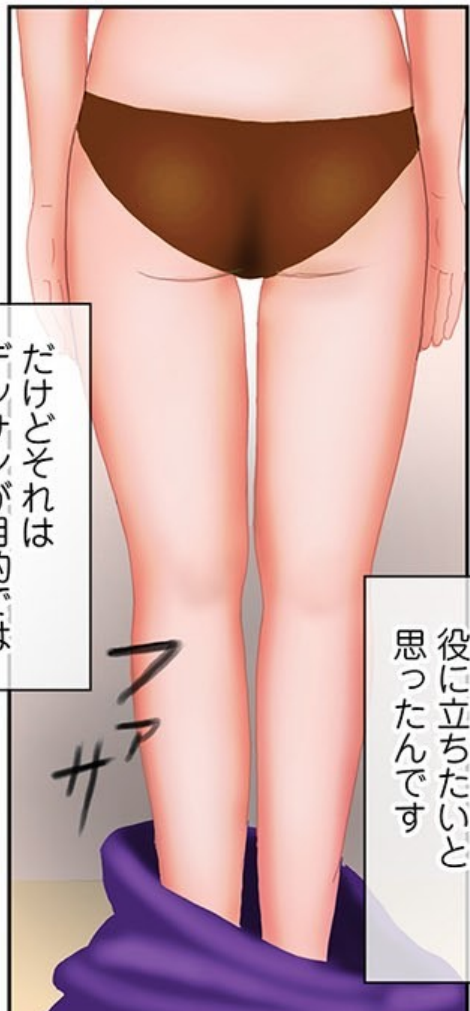
まあ
いいか



うーん
……



だけどそれは
デッサンが目的では
なかったんです



それに義理の息子の
役に立ちたいと
思ったんです



わたしも絵画に
携わっていたから
こういう事も
ありだと思い……



正樹くんが
わたしを求めて
きたのです

ここは
冷静になつて
たしなめようと
思いました



ダメよ
モデルに手を
出すなんて

絵画を志す人の
することじゃないわ



だけど
正樹くんの
発した言葉で

父さんに
頼まれたんだ
麻美さんのこと
抱いてくれって

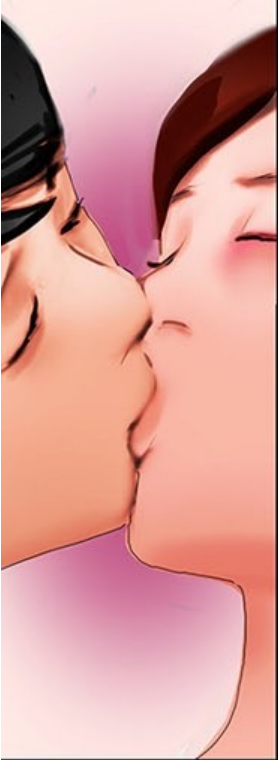


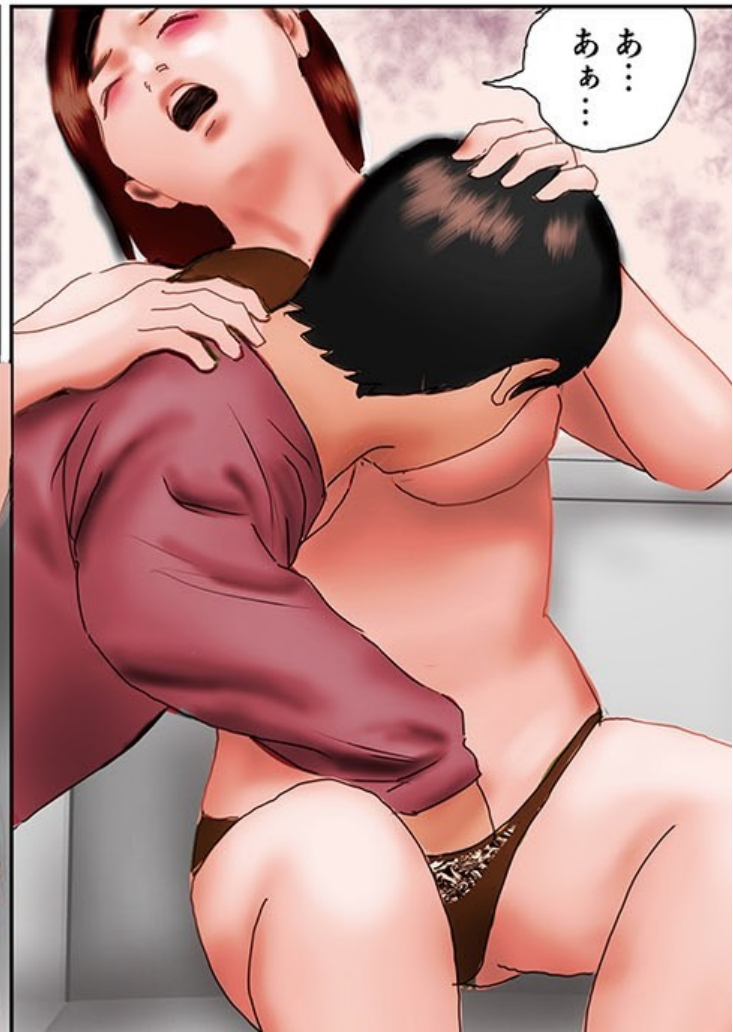
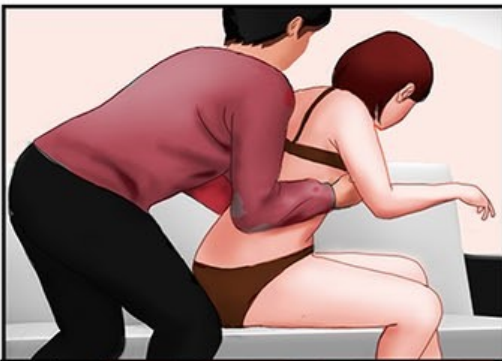
身体が固まり
言葉を
失ったんです

俺のチンコで
麻美さんのこと
満足させてくれって
言われたんだ



ええ！









わたしは
待ちきれず

ズボンの中から
ペニスを取り出し

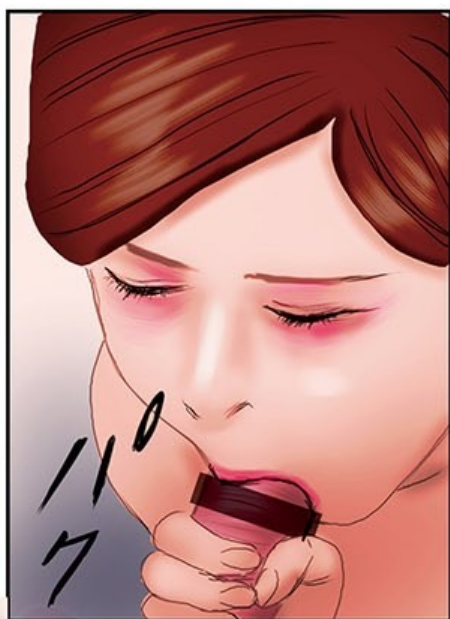
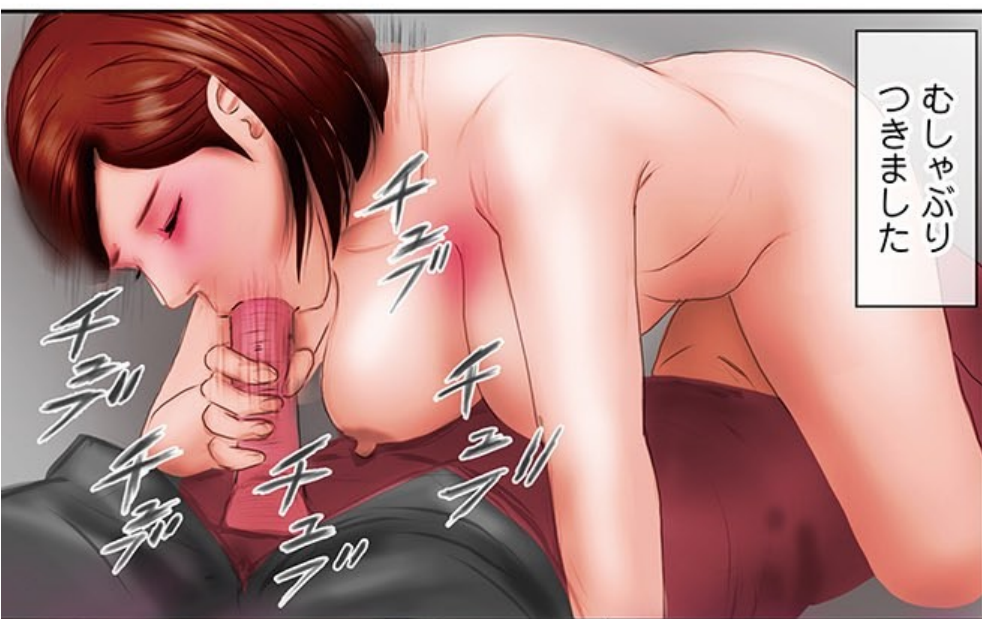
あー
たくましいわ

むしゃぶり
つきました

ハク

そして
恥じらいもなく

正樹くんの
固いオチンポ
あたしの
オマンコに入れて

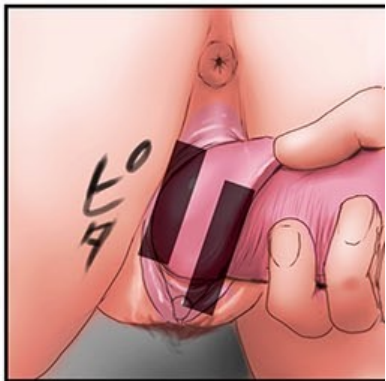




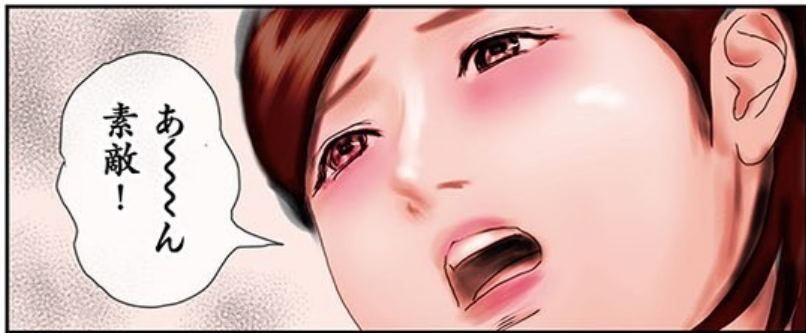
あはあ



オマンコ
だなんて
麻美さん
エッチだな



ピタ



あ~~~~ん
素敵!



ペニスは
膣肉を
押し広げ
ゆっくり
侵入して
きました



んああつ

次第にピストンの
勢いが増してきました



あ

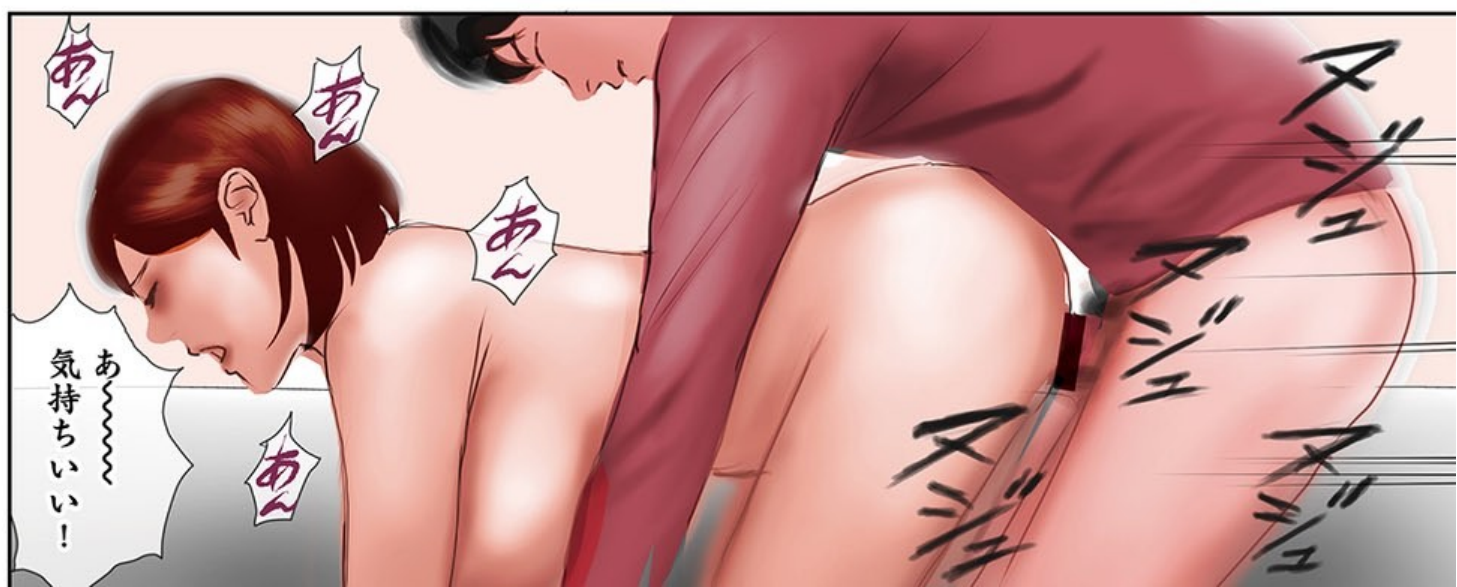
あ

ぬちゅ

ぬちゅ



義理の息子に貰われ
わたしは鳥肌が立つほど
快感を覚えていました



あ~~~~
気持ちいい!





ああああく~~~~

大満足でした
でも罪悪感も
わいていたのです

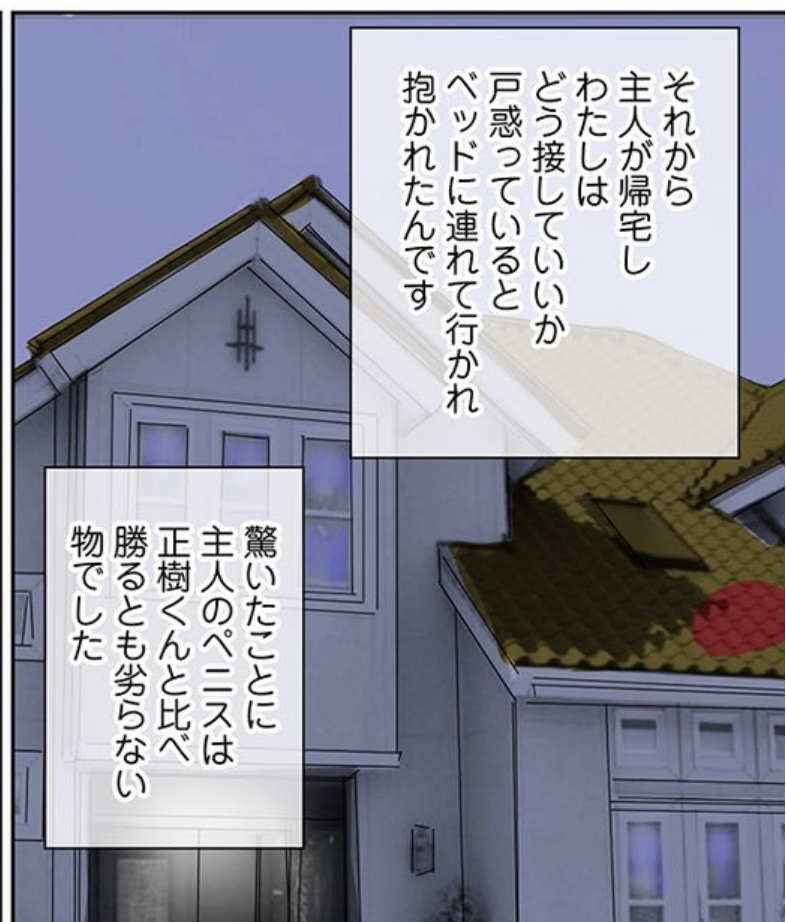


あ——
すごい

たまた
ないわ

主人が正樹くん
にわたしを抱か
せたのはわた
しのためだけ
でなく自身の
回春の刺激を
得るためだ
ったようです

今わたしは
なんの不満も
なく充実した
生活を送っ
ています



それから
主人が帰宅し
わたしはど
う接してい
いか戸惑っ
ているとベ
ッドに連れ
て行かれ抱
かれたん
です

驚いたこと
に主人のペ
ニスは正
樹くんと
比べ勝
るとも劣
らない
物でした

END

パート妻の甘い唇



俺は大学4年生
母子家庭だったから
母親に負担をかけたく
なかったので学費も
生活費も自分で稼いで
自活していた

ホームセンター

そんな生活も
もうすぐ終わる
就職が決まり大学を
卒業するからだ

だが俺はやり残した事
があると思っていた

そんな時
最後となる
アルバイト先で
パートの人妻と
親しくなった

休憩時間が重なり
いつも二人きりで
色々話してるうちに
俺は彼女に惹かれて
いった

…あたし
この動画アプリに
はまってるの

彼女も俺に
好意を持って
いるように
感じた

さわぐちみか
沢口美香 33歳

ほら
可愛いでしょ

本当だ
……

旦那は単身赴任中で
子供は保育園児だ

……
沢口さん
キスして
いいですか？

え…





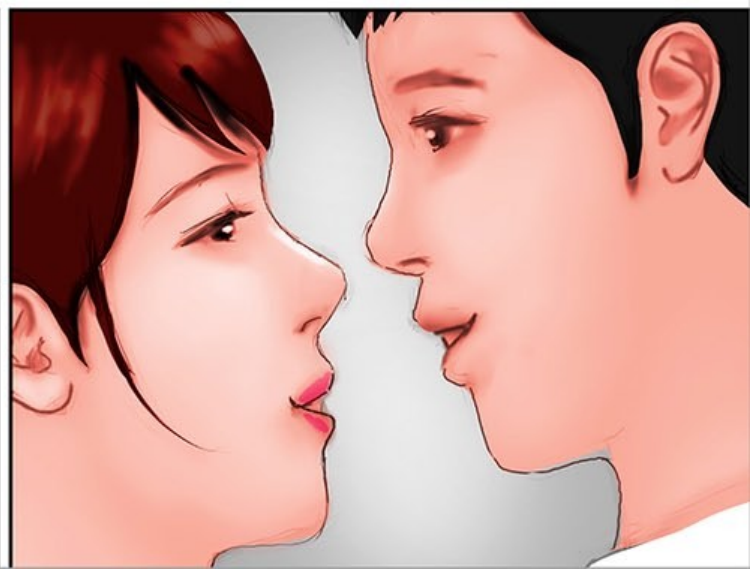
ちよつと
背徳感のある
甘い味がした

人妻との
ファーストキス



どういたしまして

ありがとう
ございました





それから
俺たちは
……



……お尻
触ってもい
いんですか？

……うん



尻に触れると



服の上からでは
わからなかったが
意外に丸くて
ポリウム感が
あった



休憩時間のたびに
キスを交わした
最初は挨拶の
ようなものだったが
……

回を重ねるごとに
濃厚になっていき……

興奮は
増していった



あー
興奮する

ぴちゃ
ぴちゃ



チンコは
盛り上がり

その勢いは
沢田さんの下腹に
伝わったのか…



パンスト越しにも
十分むっちり感が
伝わってきた



……
ゴム無い
ですけど

え……
そういうことじゃ
なくて



いいん
ですか

筆下ろしを
してくれる
のかと思った



オチンチン
出して

え……!



スツキリ
してあげるわ



鎮めておかないと
仕事に差し障る
でしょ

……
硬いね

くぅ〜

筆下ろしを
期待したが
やはり人妻
それは無理なん
だろうと思った



あー
たまらない



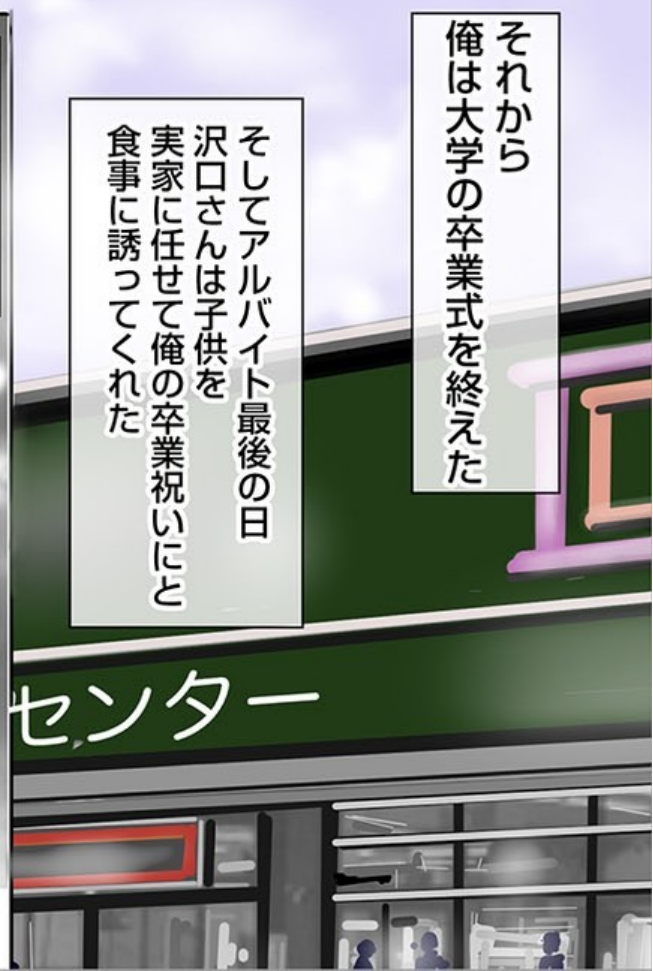
手慣れた人妻の
手コキ

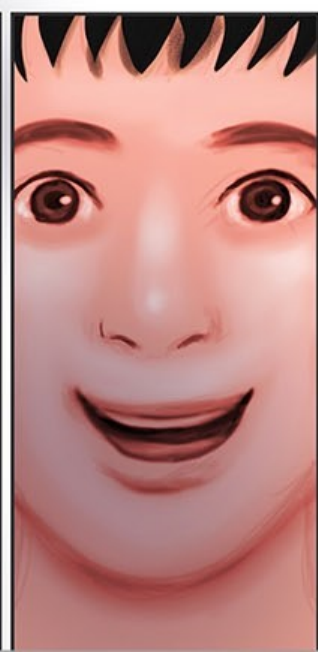
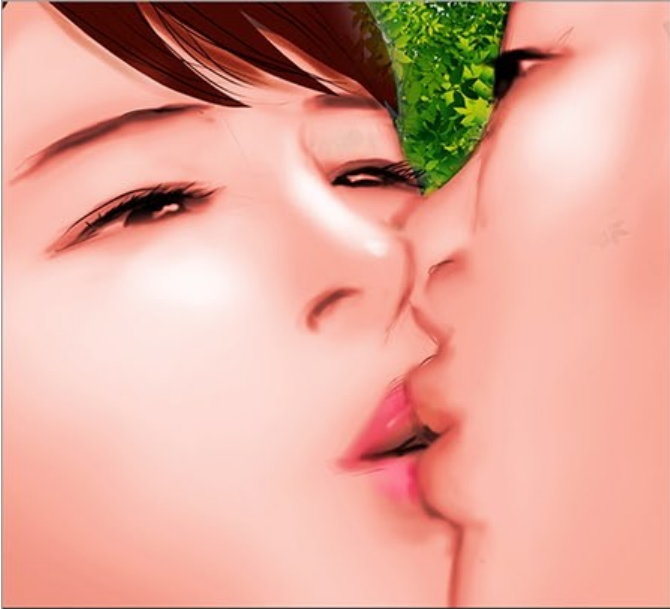
自分で擦るのとは
桁違いの快感だった

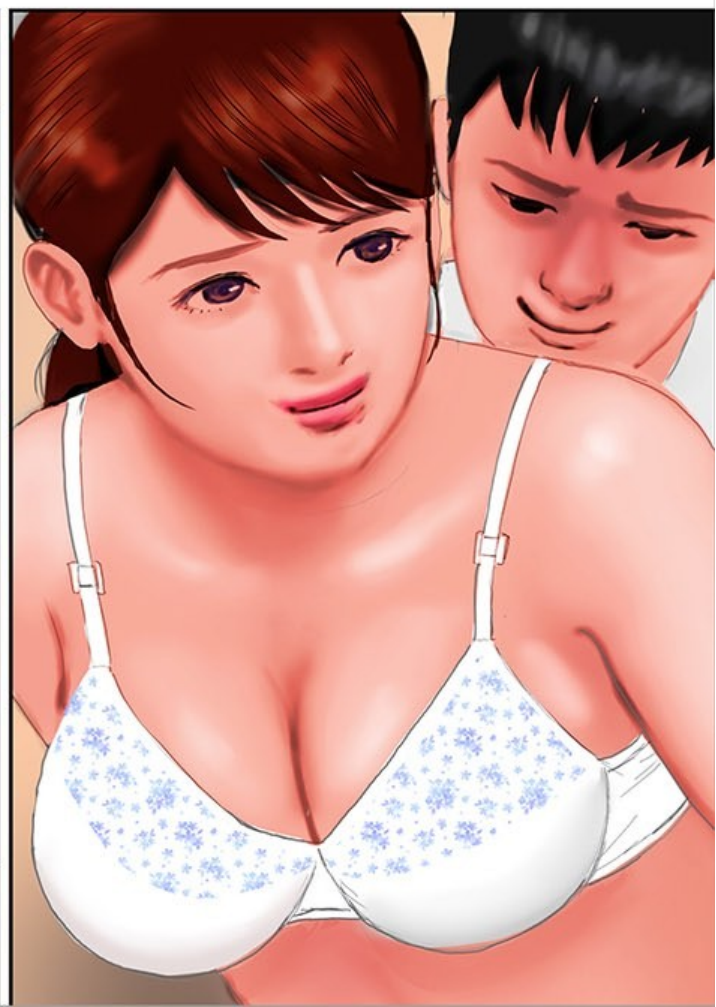
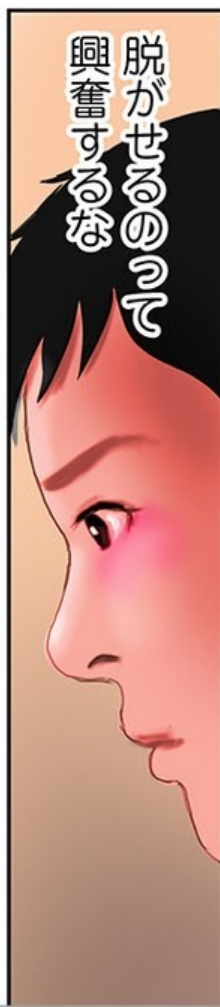
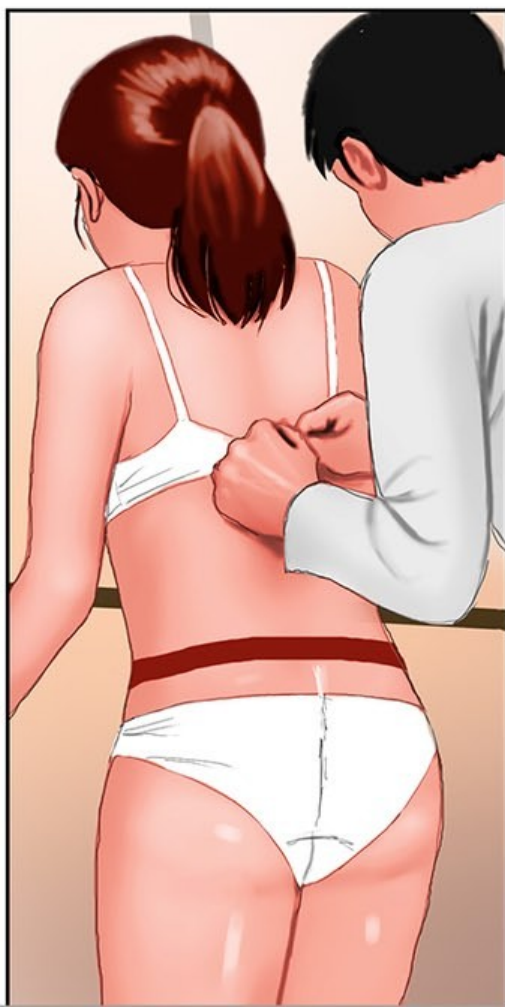


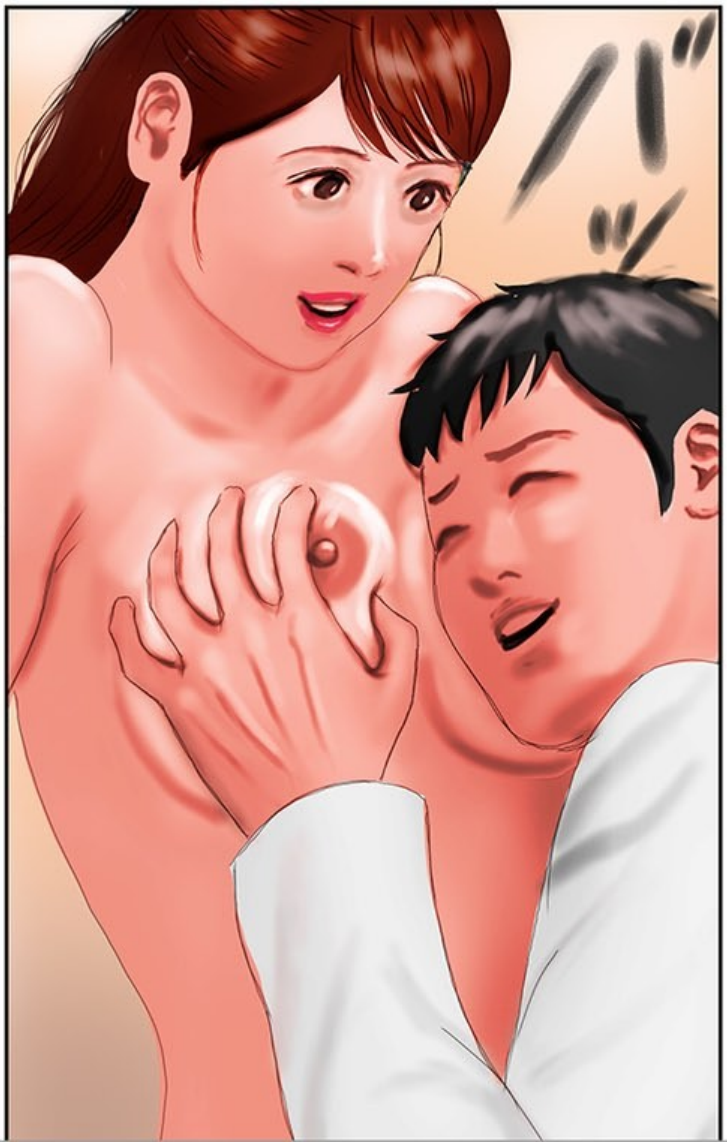
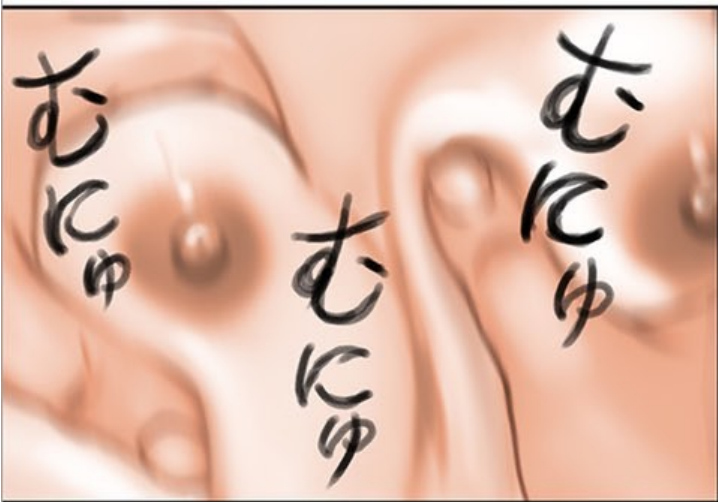
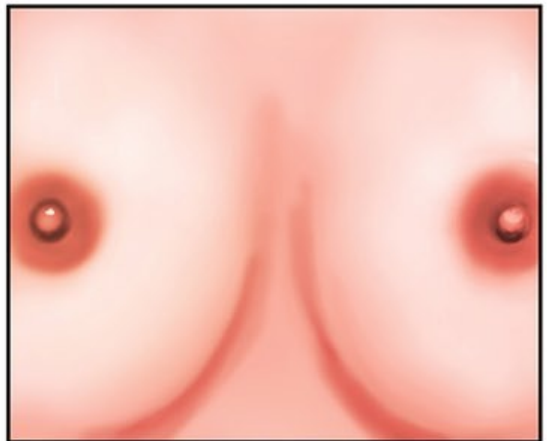
ちよつと
がっかりしたが
そんな気分は
すぐに吹き飛んだ

あ……
あ……
あ……



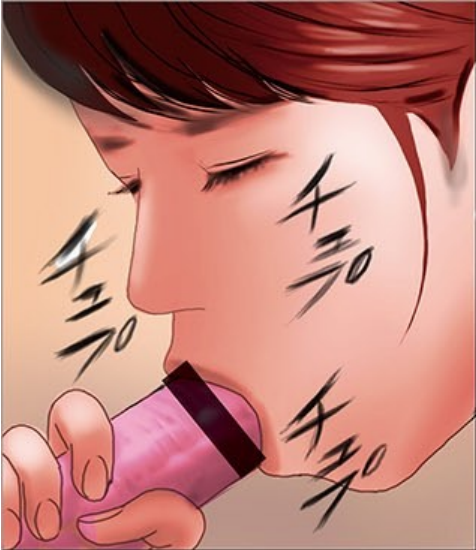




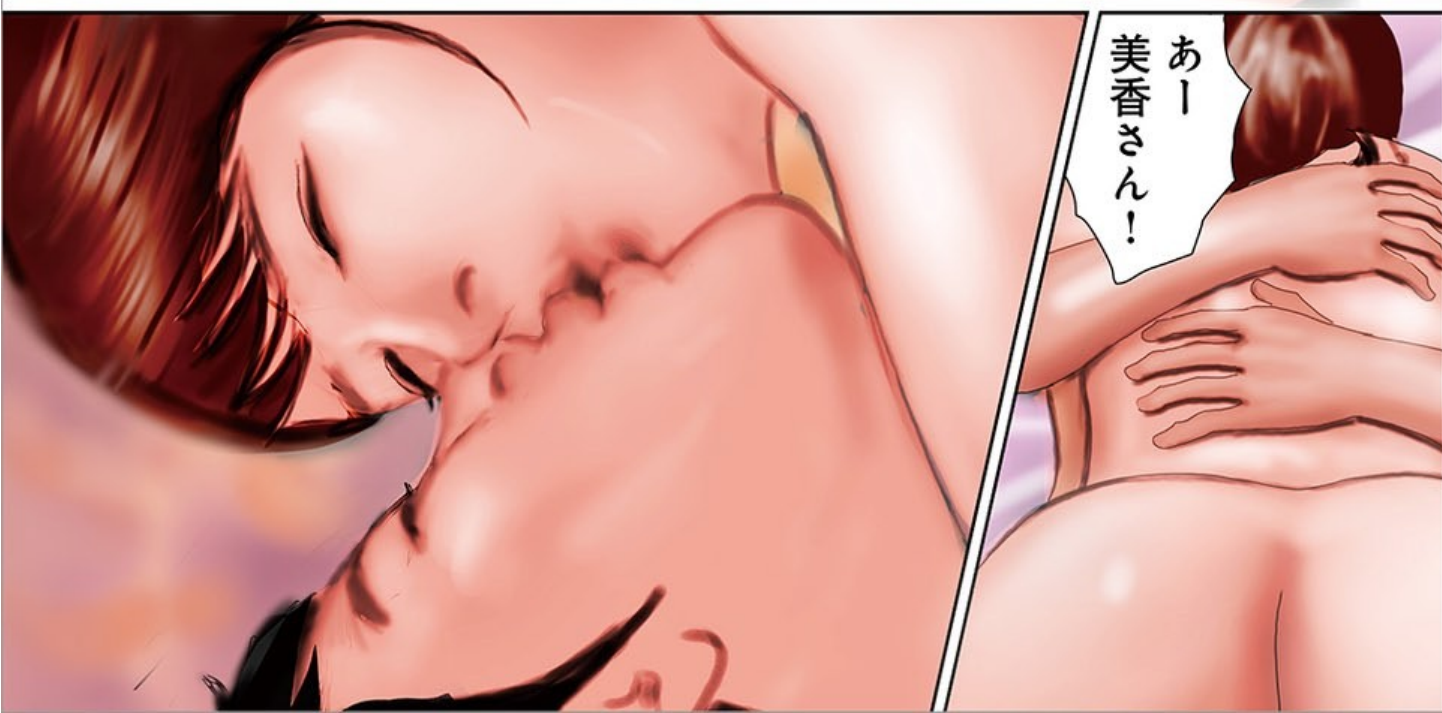


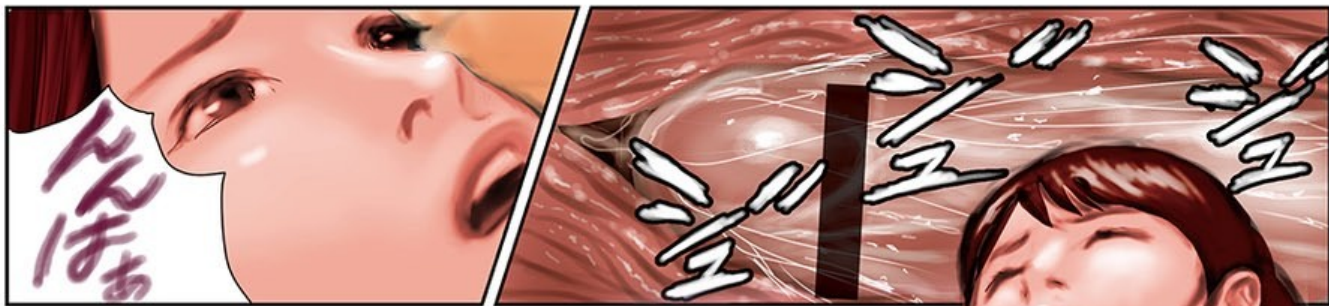














あっぱあ~~~~ん

チンコが
破裂したんじゃ
ないかと
思えるような
放感だった

美香さん
これからも
たまに会って
もらえますか？

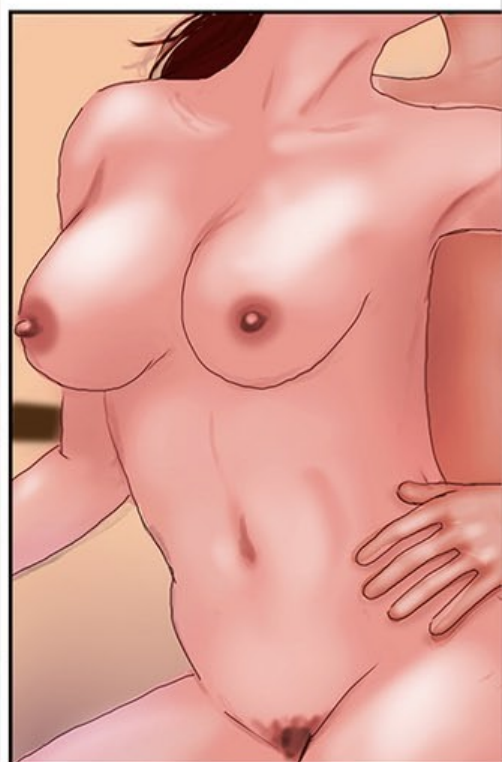
できないわ

あたしこの春から
子供と一緒に
夫の単身赴任先に
引っ越すの

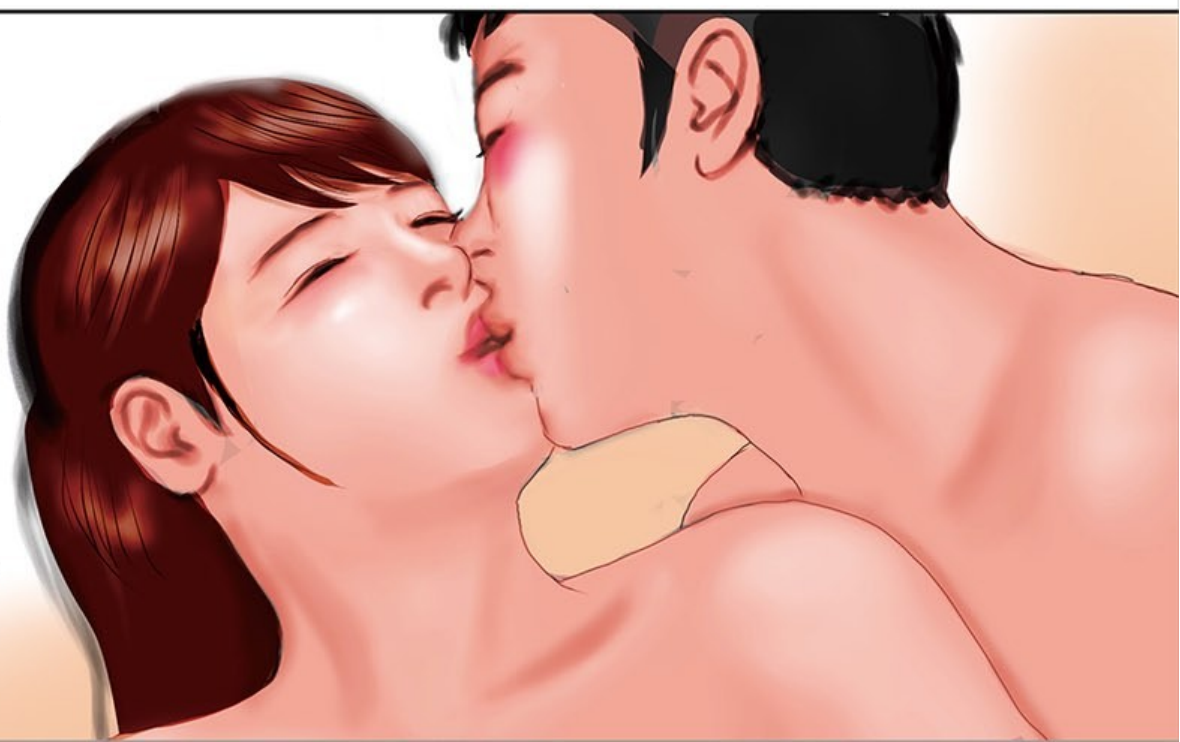
えー
そうなん
ですか
……

二人の門出を祝して
もう一回しない

わかりました



美香さんと交わした
キスの味は学生時代の
忘れない思い出に
なるだろうと思った



END

美人課長の

誘惑のフェロモン



俺は化粧品会社の
営業マン26歳

その日は取引先の会社で
打ち合わせがあった

長引いて
しまい
自社に
戻ると…

部署には
課長のほかには
誰もいなかった

課長は俺の
報告を待っていたのだ

ただいま
帰りました

寝入ってる
……

残業が続いてたから
疲れてるんだな……
仕事熱心なもの
ほどほどにしないと

課長は37才
美人で仕事ができ
俺の憧れの人だ
課長も俺に何かと
目をかけてくれていた

ん…なんか
いい匂いがする

……この瓶か
香水か…
……新製品かな



課長を起こそうと
近づくと...



ん...
今嗅いだ香水と
同じ匂いがする

うーん
そそられる

香水と課長本来の
フェロモンが
混じった匂いに
俺は酔いしれ...
ムラムラ感が
高まってきた



課長のブラウスを
はだけてしまった

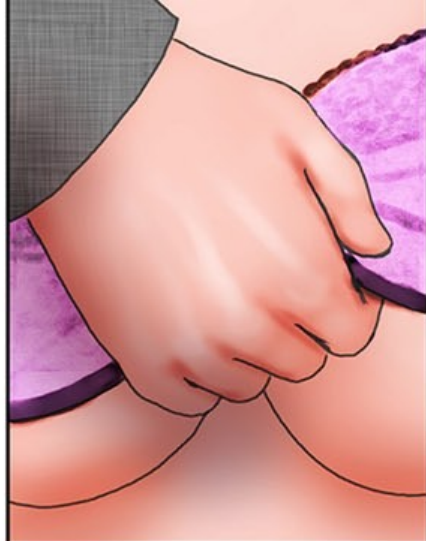
お...
思ってたより
大きいな



あ...
ボタンが
外れてる
...



俺は誘われる
ように...



……いや大丈夫
起きそうもない

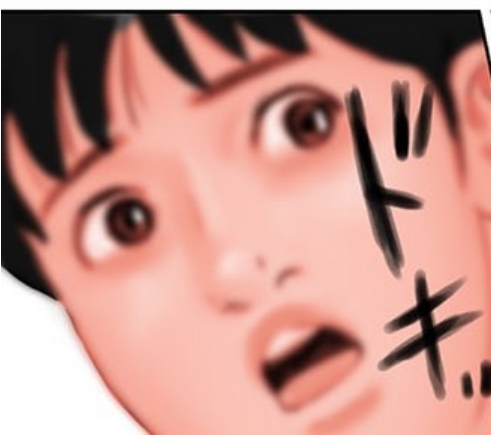


やばいかな
……



うわあ~~~~

柔らかいん
だらうな



トキッ



効き目
あるわね



ちょっと
だけ





なんでもいいわよ
率直な意見言って

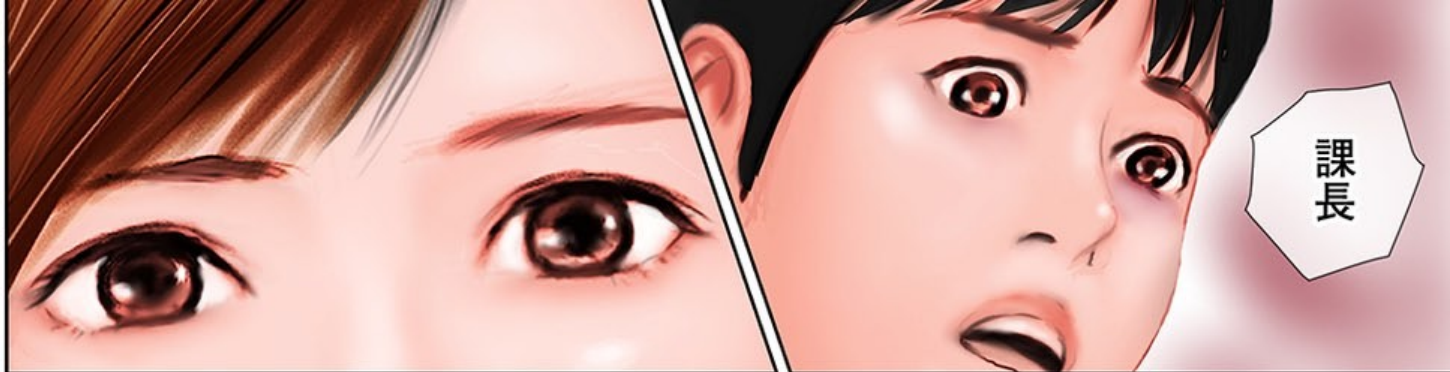
…もしかして課長は
香水の効き目を
試すと同時に
俺を誘惑してるのでは

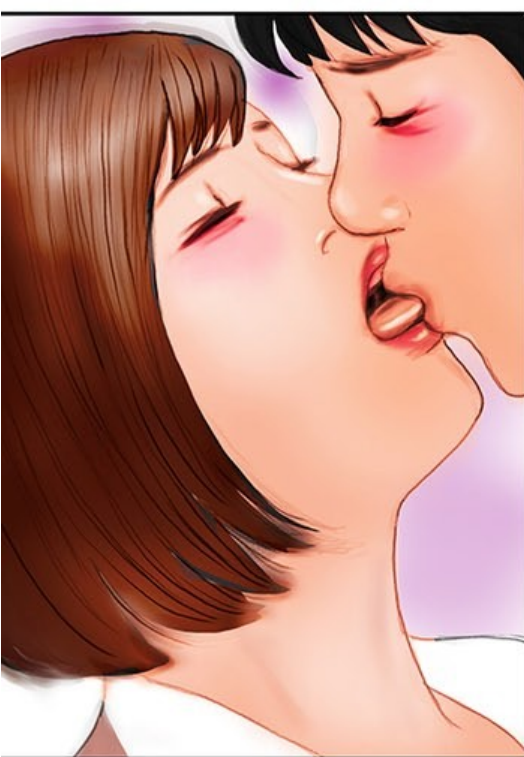


ムラムラした
気分が収まり
ません

課長を
抱きたいです！

…そんな気持ちに
させたのは
あたしの責任ね







下着の中に
手を入れた

オマンコに
触れると
ヌルヌルだった

にゅる

にゅる にゅる

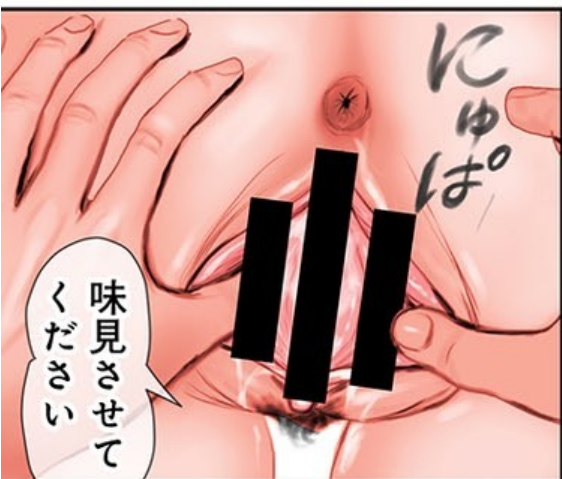


あああ

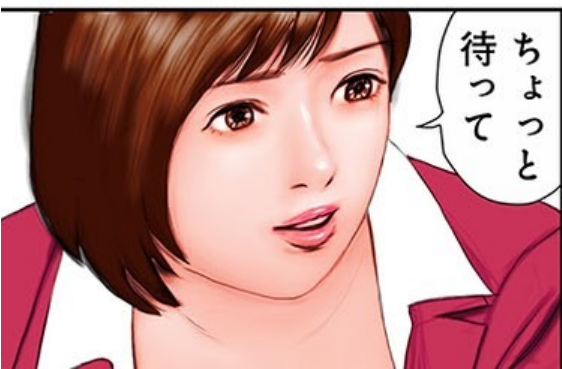


にゅる

味見させて
ください



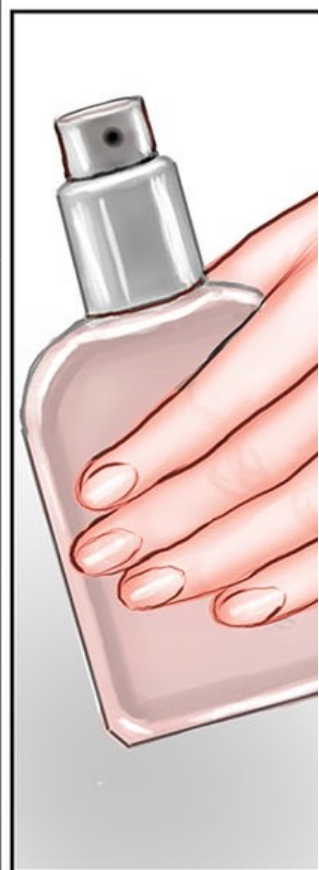
ちよつと
待って



す

下着を下ろすと
課長のフェロモンが
発散した





今日ね外回りで
一日中歩き回ってたから
蒸れてると思うの



それに
ここに付いたら
どんな効果があるか
試してみたいの

：俺的には
蒸れた生の方を
味わいたかったん
だけだな



課長のマン臭と
フェロモン香水の
混じった匂いは
脳みそを痺れさせ
興奮をぐっと高めた



なんて刺激的な
匂いなんだ



俺は課長のマンコに
むしゃぶりついた

んんあ

あはあ

あひい

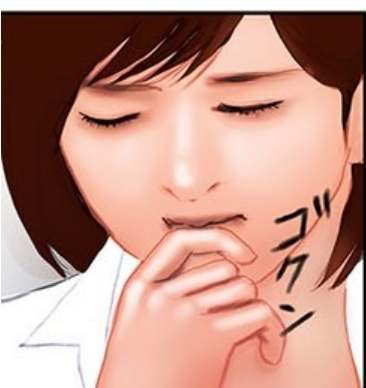
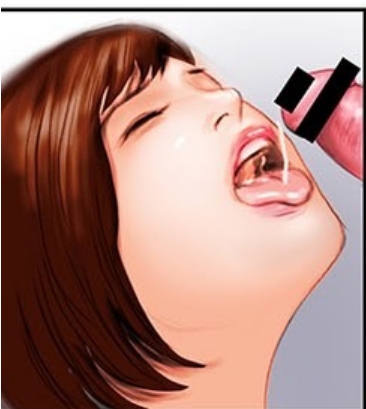
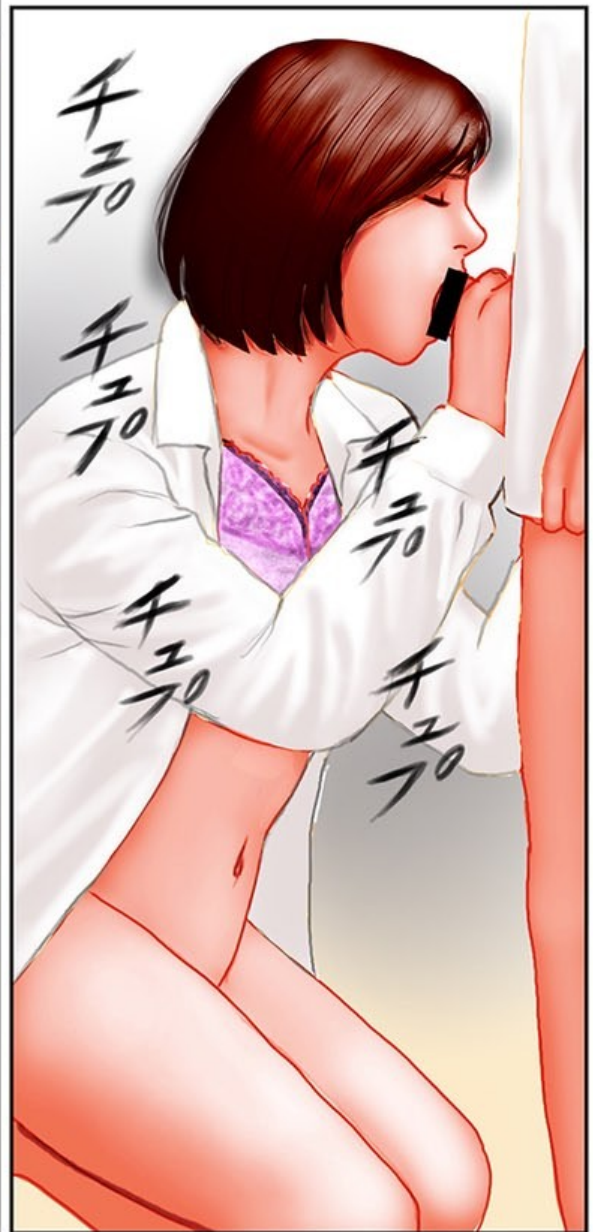
はん
あん

あ
あ



俺はじぶんでも
びっくりするくらい
舌が高速に動いていた





チンコは
またたく間に
復活した



あゝゝ
ゾクゾクする



あ



あゝゝ

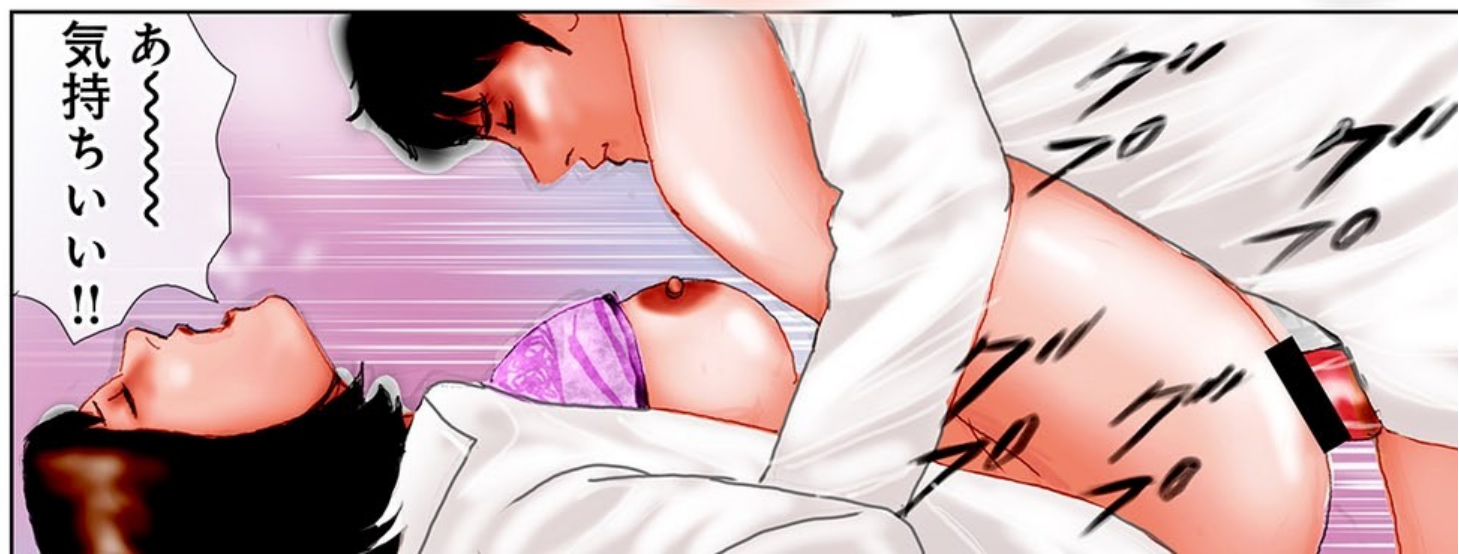
課長ゝ



憧れていた
課長と繋がった
悦びでチンコが
膣の中で増大した







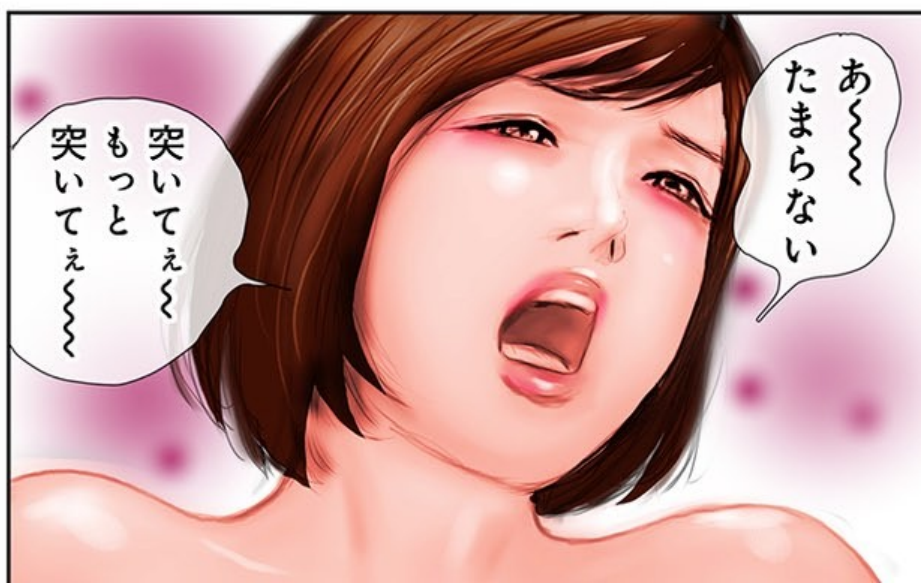


あ...ああ
課長
俺イキます

いいわ
いっぱい
出して

あ...
イイ...

イク...



いとこのお姉さん

報復の中だし



俺は25才の会社員
実家で両親と暮らしている
そこへ母の姪すなわち
俺の従姉が転がり込んできた

旦那の浮気が発覚して
家を飛び出してきたのだ

綾子^{あやこ}30才職業は
エステティシャンだ

お世話に
なります

綾ねえが実家に帰らず
ウチに来たのは
兄夫婦とその子供達が親と
同居していて戻りずら
かったのだ

それに勤務先がウチに近く
通勤帰りよくウチに寄っていき
ウチの家族と親しくして
いたからだ…

遠慮しないで
いつまでも
居ていいからね

俺は綾ねえと
呼んでいた

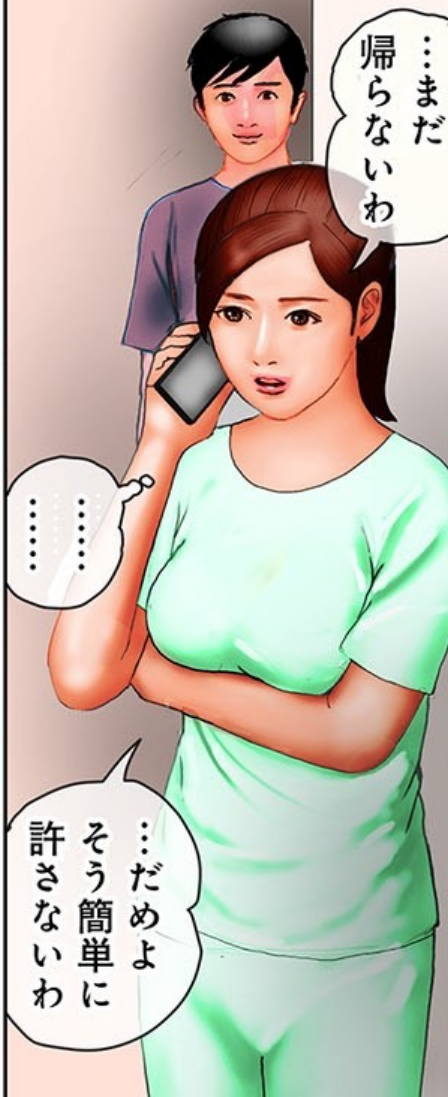
綾ねえは
次の日から
欠勤することなく
ウチから通勤した



当初はかなり
落ち込んでいたが
日を追うごとに
少しずつ元気を
取り戻していった

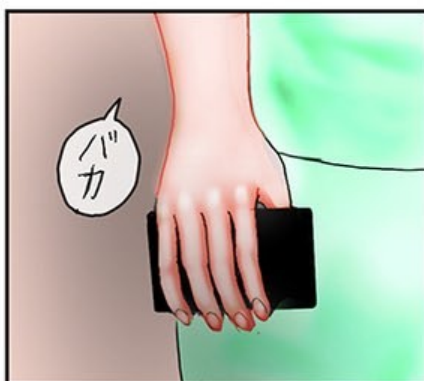


…まだ
帰らないわ



…だめよ
そう簡単に
許さないわ

バカ



泣きそうな
声だったわ
…いい気味



綾ねえは
俺の初体験の
相手だった





綾ねえの店は
メンズもやっていて
練習台を頼まれた
……



俺が高3で
綾ねえはまだ独身で
エステティシャンに
成り立てだった



女性に肌
触られるの
初めてなんだ
俺には刺激
強すぎだよ

童貞だっ
たの……



どうしたの？

俺はチンコが反応
してしまったのだ



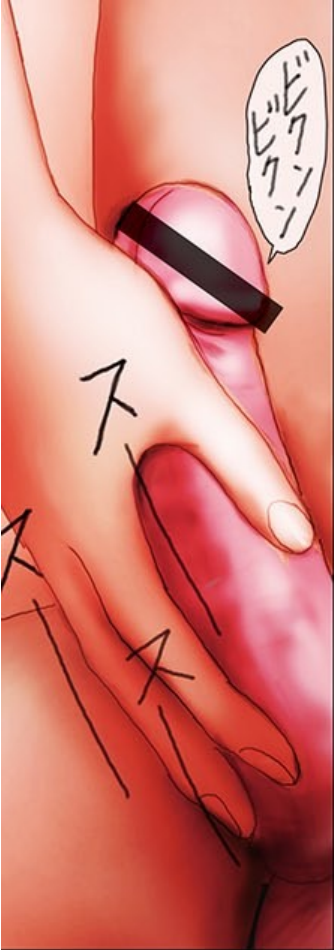
かわいい
従弟のためだ
人肌脱ぐか



したい！
したいよ



筆下ろし
したい？



綾ねえは
全裸になって
くれたのに
俺はどう攻めて
いいかわからず
戸惑っていた！

これはは
成り行きよ

一回きり
だからね



綾ねえ！



ああ……
ああ……



俺は夢中で胸に
むしゃぶりついた



これが綾ねえの
おっぱい！





え…



マッサージして
あげようか



よくしてもらった
お礼よ

叔母さん達も
昨日して
あげたのよ



綾ねえがウチで
過ごして一週間
自宅に戻ることに
なった



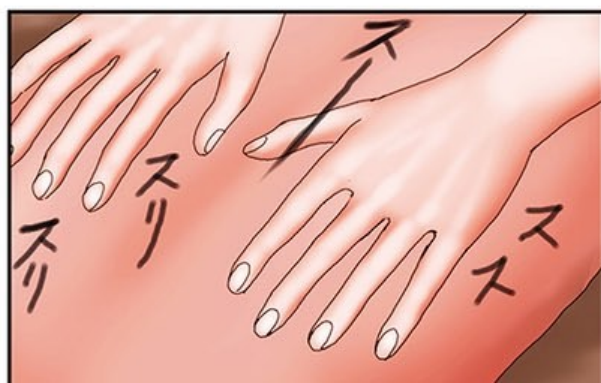
帰る日の
前夜



俺は筆下ろしを
してもらった時の
ことを思い出し
チンコがうずいていた



それじゃあ
お願いしようかな





……許せたとしても
あの人のことを責める
気持ちには消え
ないんだろうな



旦那のこと
許すの？

まだ
わからないわ



綾ねえの手が
太腿の付け根を
揉み始め
手はそこから
移動しなくなった

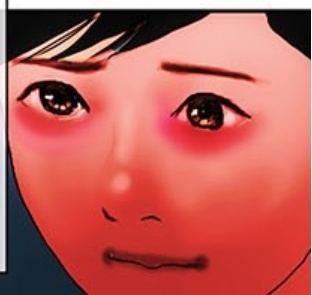
……どうすれば
いいんだろう



綾ねえは
俺を挑発して
いたのだ

……仕返し
すれば

俺の
チンコは
ギンギンに
膨らんでいた





仕返しすれば
許す気になる
んじゃないの



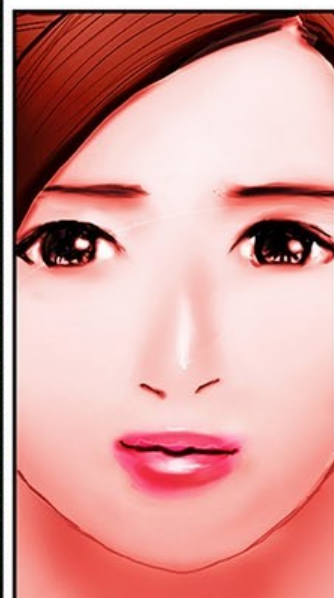
そう思っ
てるんだろ

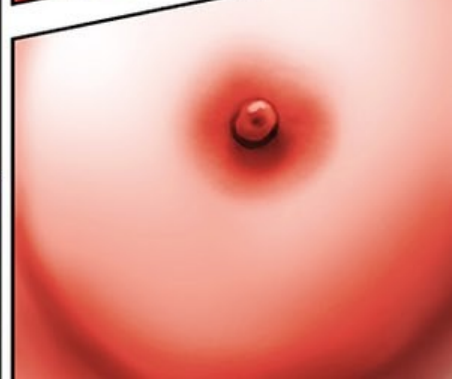
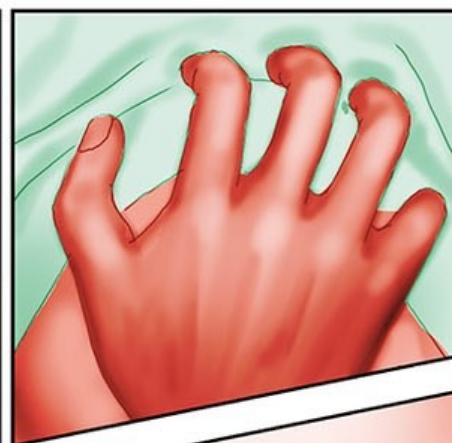
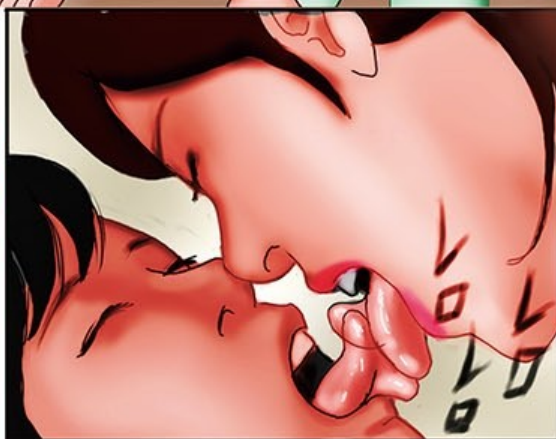
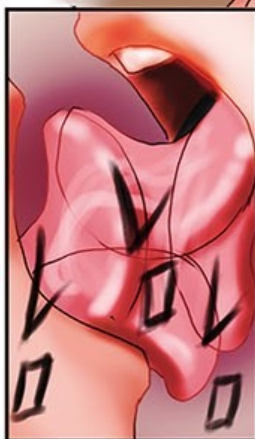


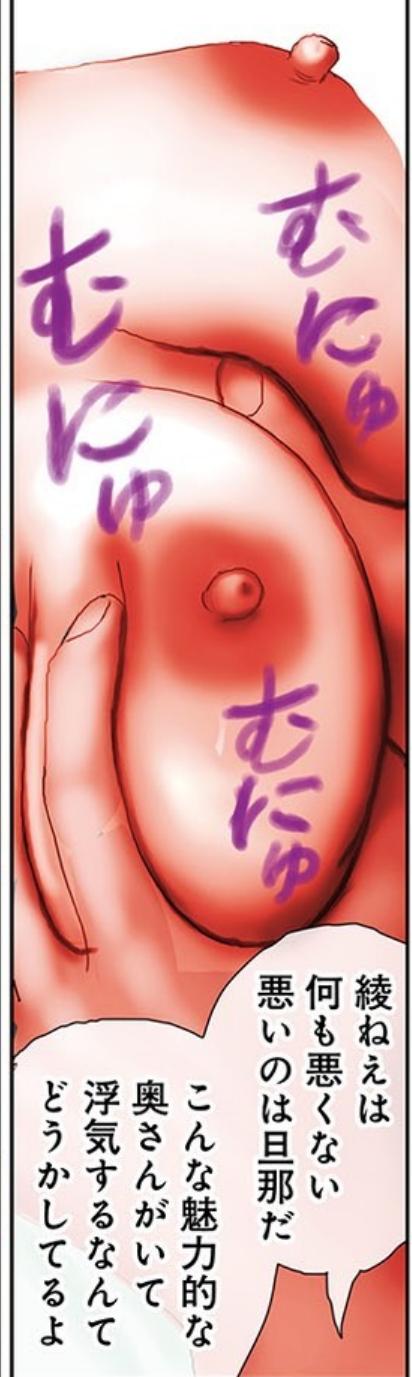
俺はこうなるん
じゃないかと
予感めいたものが
あった



綾ねえがウチに
転がり込んで来て









綾ねえは
チンコを
咥えと

ねっとりした
唾液を塗り
こんでいた



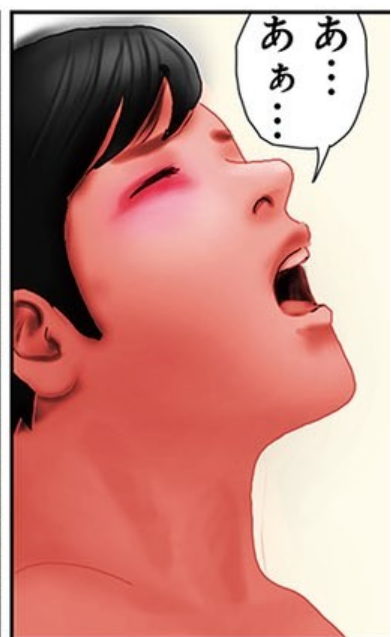
出さないで

あたしの中で
濃いのがいっぱい
ぶちまけて



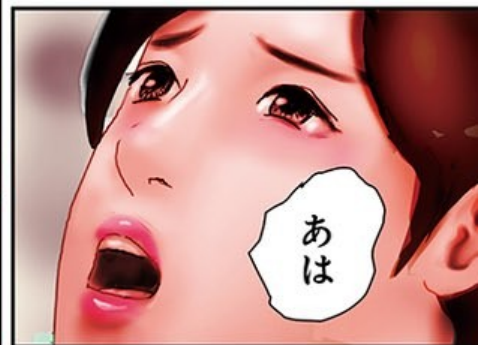
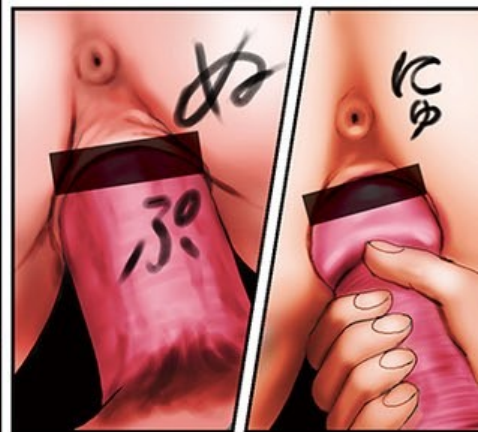
ああ…
出ちゃう…

あく
たまらない

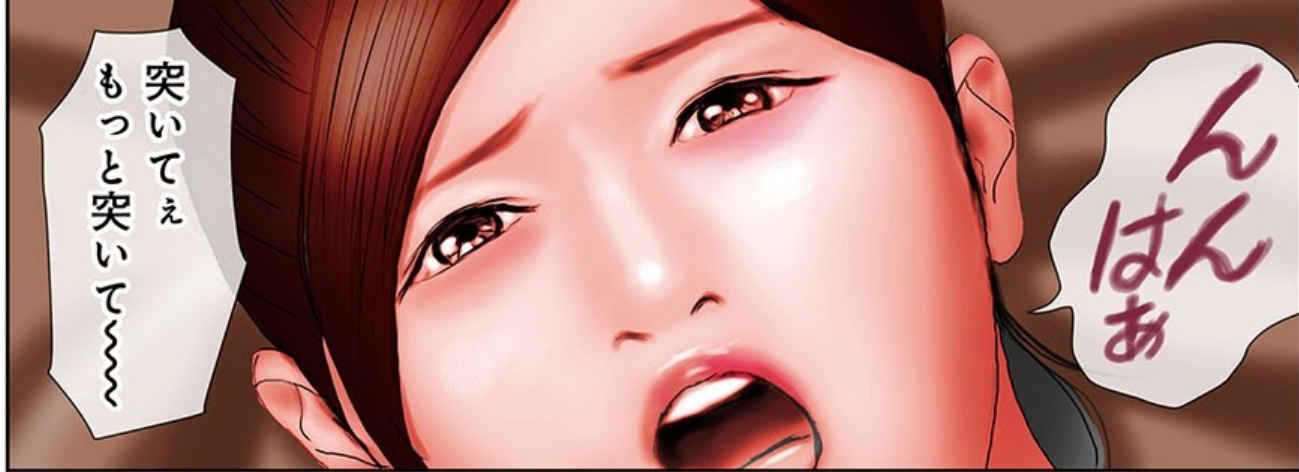


あ…
ああ…



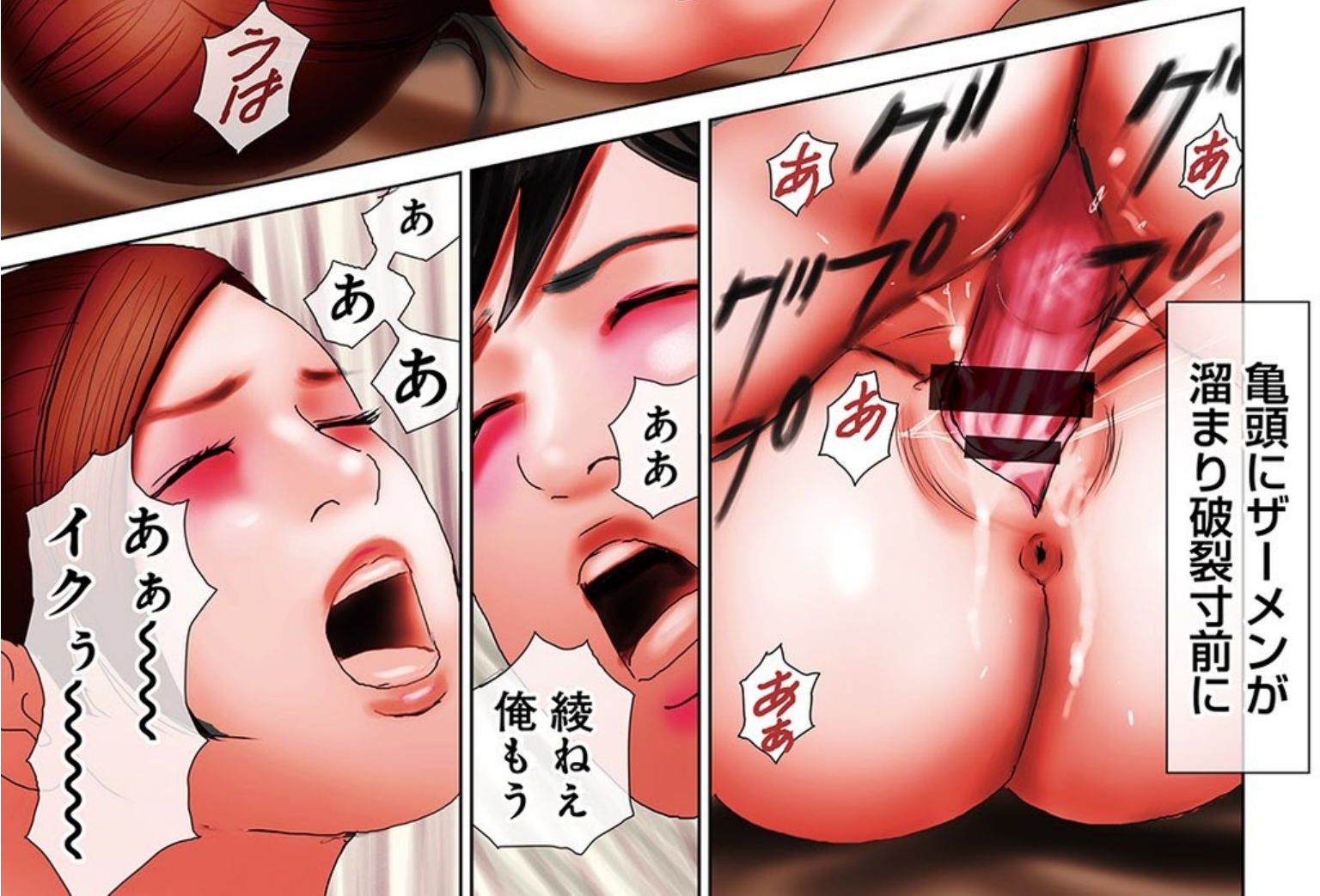








膣壁の
収縮が始まり

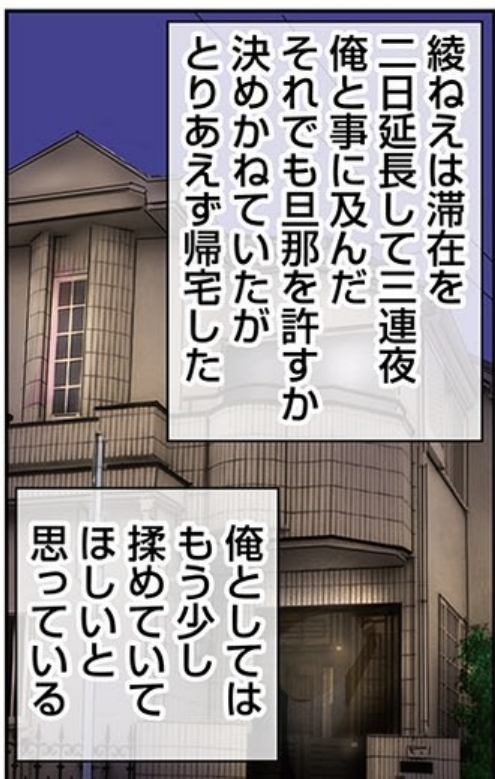


亀頭にザーメンが
溜まり破裂寸前に



んああああく

綾ねえの望み通り
大量のザーメンを
膣にぶちまけた



綾ねえは滞在を
二日延長して三連夜
俺と事に及んだ
それでも旦那を許すか
決めかねていたが
とりあえず帰宅した

俺としては
もう少し
揉めていて
ほしいと
思っている

END



…あ

そういえばあの
浮気をしたのは
3回だって言ってたわ



……どう
これで旦那を
許す気になった

…うーん
どうかな

人妻ダグシードライバー

陰唇の疼き



わたしはアラフォーの
タクシードライバーです

専業主婦をしていましたが
娘が高校生になったのを機に
働き始めたんです

わたしは車を運転するのが好きで
勤務体系も主婦向きの昼だけでも
OKだったのでこの仕事を選びました



最初は気楽な仕事だと思
っていましたが
たまに嫌なお客も乗って
くるのです

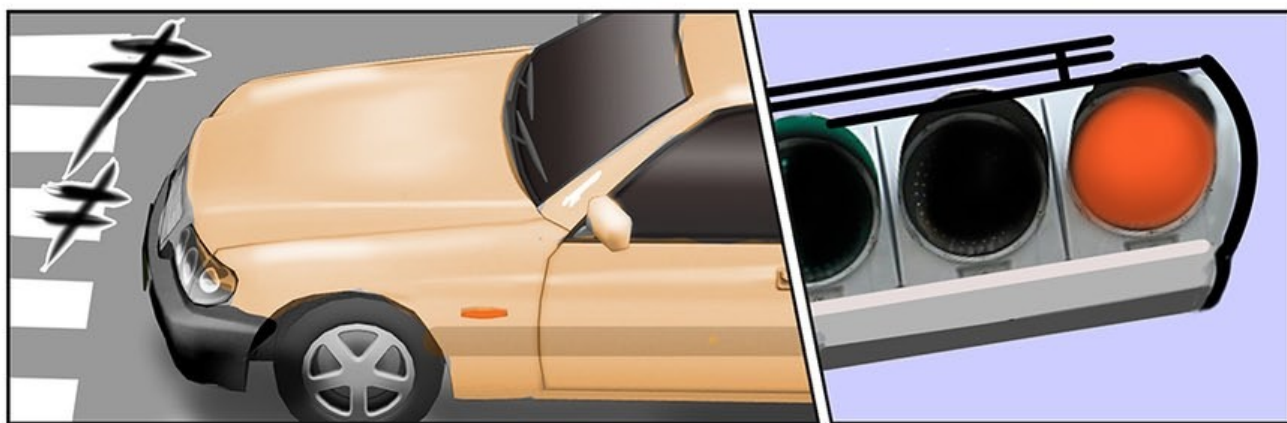
……
その日も

急いでるって言ったろ
もっとスピード出せよ



これ以上は無理です





ストレスが溜まると
運転に支障を
きたさないように
解消します



わたしが
考えた方法は……



ああ……



あ……



快楽に身を
置くことで

嫌なことを忘れ
気持ち切り
替えるのです

んん
……



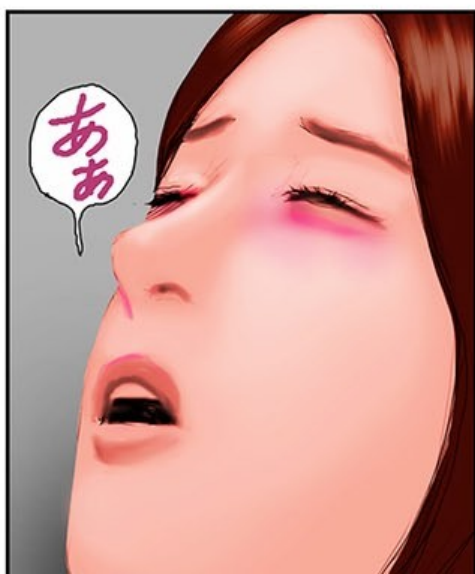
こんなことを
思いついたのは
夜の夫婦生活に
不満があったから
だと思います

クチュ

クチュ



ああ





その日は最低のお客を
乗せたので怒りが収まらず
気持ちよくイクことが
できなかったんです

ムラムラした気分だけが
残ってしまったんです

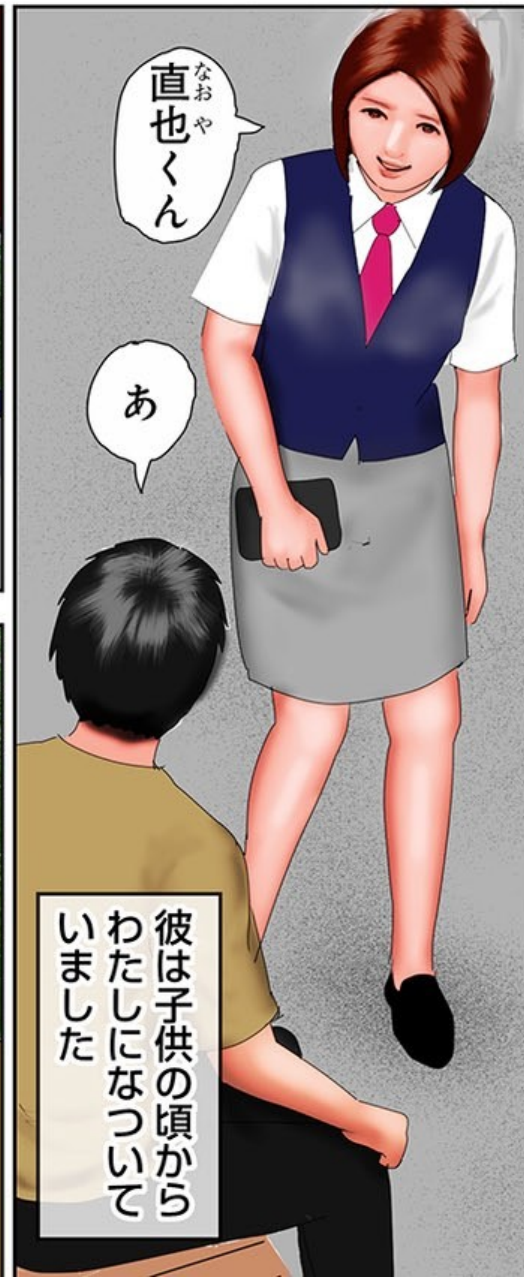


わたしも彼を
可愛がって
いたんです

今日は
お休み？



……
さぼり



なあ、
直也くん

あ

彼は子供の頃から
わたしになついて
いました



彼はウチの
ご近所さんの
大学生

彼の家とは
家族ぐるみで
親しくして
いたんです

ちょっと彼のことが
気になったので
横に座ると

彼に失恋したことを
打ち明けられたんです

友達に彼女奪われ
ちゃったんだ

はあー

それは
辛いわね

彼はわたしに
取り付いてきんです

おばさん

直也くんなら
すぐに新しい
彼女できるわよ

膝貸して
くれる

わたし固まって
しまいました

そして身体が火照り
欲情してしまいました

膝をとられた
ぐらいで欲情
したのは
訳があったんです

少しの間
こうさせて
柔肌が
恋しいんだ

ホッ

雨降って
きたわ

雨は
本降り
になり

直也くん
車の中
行こう

わたしは
直也くんを
自宅に送って
行くことに
したんです

乗車して
間もなく

直也くんが
太腿を触って
きました

彼はわたしを
求めているんだと
思いました

わたしは
拒めませんでした

実はトイレで
オナニーをしていた時
頭に浮かんでいたのは
直也くんだったんです

彼はわたしの
オナニーの
オカズの
リストの
一人でした

あたしに慰めて
ほしいの？

おばさんみたいなの
綺麗な人抱けたら
彼女のこと忘れ
られると思うんだ

その時わたしも
彼をもとめて
身体が疼いて
いたんです

だめ！
だめ！
だめよ

だめ！

……
わっかたわ

本当！



俺感激だよ
でも時間
大丈夫なの？

休憩時間よ



レチュ
レチュ
レチュ
レチュ
レチュ



オマンコ
ぬるぬるだ
俺のこと
ほしいんだね

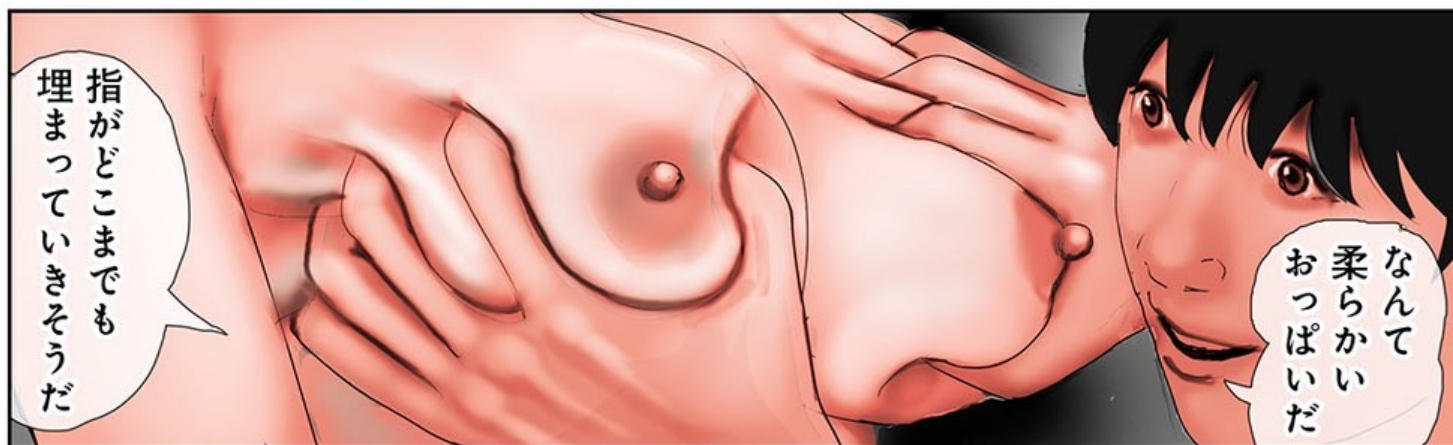
くちゅ
くちゅ



彼のペニスは主人の
くたびれた物とは
比べものにならない
くらい硬かったんです

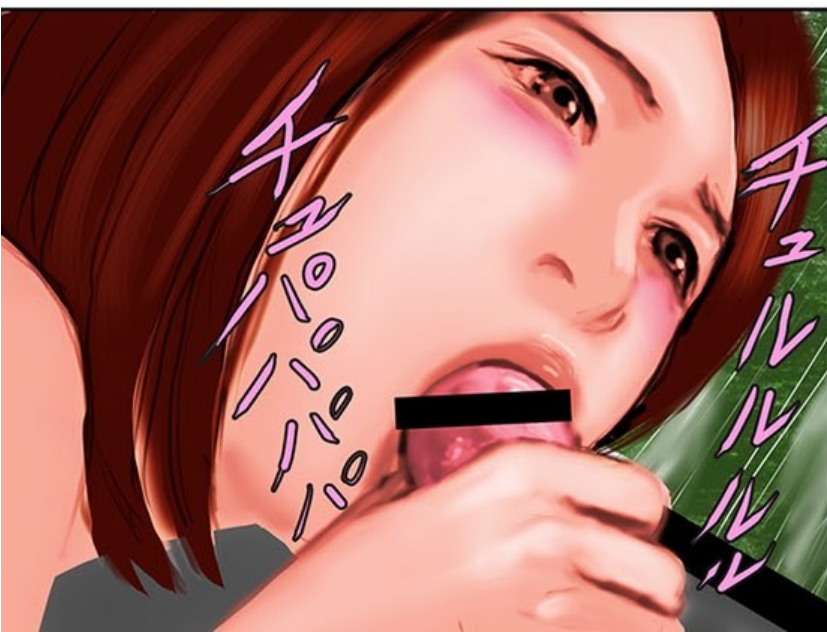


なんて淫らな
わたし……













彼女のこと
忘れられるね

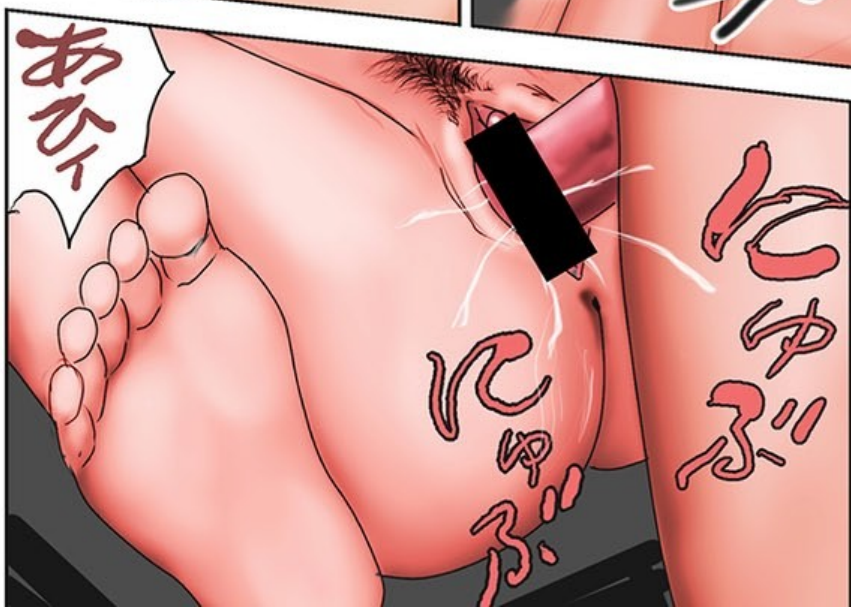
もう未練は
ないよ



んんはあ

彼女と別れて
結果的に良かったな

そのおかげで
おばさんを
抱くことが
できたんだからね



あひゃ

にゅる



あは

うぐ



あはあ

ん

ん

うはあ

ん

ズン

ズン

ズン

ズン

彼のピストンは
主人では到達しない奥を
勢いよく突いていたんです



ん

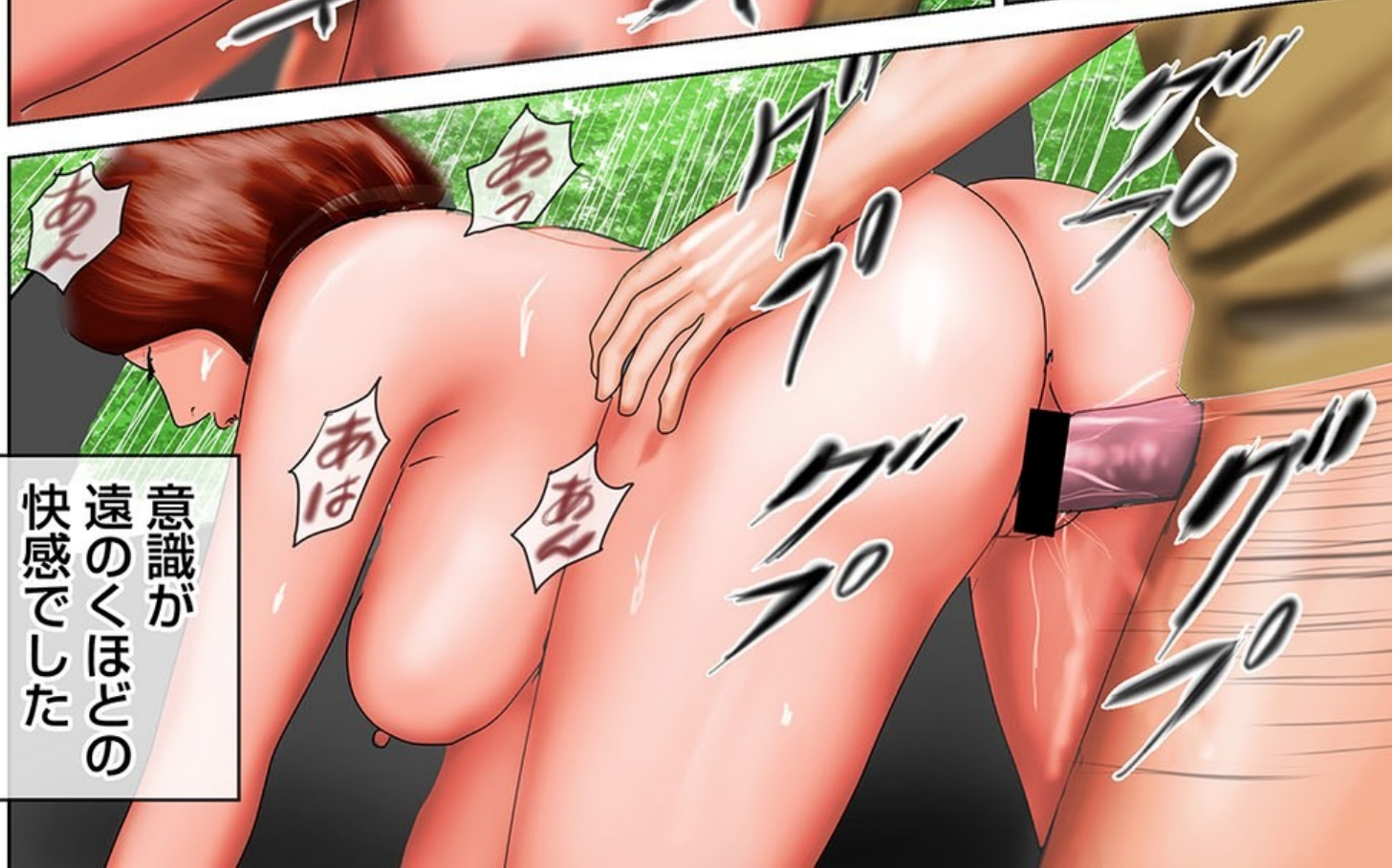
ん

グン

ん



あゝゝ
壊れちゃう







……まだ
直也くんを
離したく
なかったけど
気を取り直し
ハンドルを
握りました



あくイクう



身体が疼き濡れて
しまうのです

それから
カーセックスを
したせいか
好みの男性が
乗車してくると

おわり



その後
直也くんは
新しい彼女が
できました

わたしは相変わらず
オナニーでストレスを
解消しながら仕事を
しています

